

地域資源を活用した経済発展の可能性

エコツーリズムで地域を元気にしよう！

国交省 過疎集落研究会



日本エコツーリズムセンター
広瀬 敏通

エコツーリズムで地域を元気にしよう！ 目次

《地域再生に力を発揮するあらたな事業活動》

1、自然学校の台頭

《21世紀型社会事業体として世界中で急増する自然学校の現状》
事例紹介

- ①ホールアース自然学校
- ②グリーンウッド
- ③くりこま高原自然学校

2、地域を元気にするエコツーリズム

《日本的なエコツーリズムの展開》

事例紹介

- ①高知県幡多地区(エコ幡多)
- ②沖縄県東村など
- ③新潟県上越市桑取地区(かみえちご山里ファン倶楽部)

3、都市のNPOとの協働によるワークキャンプでの地域おこし

事例紹介

- ①福島県昭和村「NPO苧麻倶楽部」「寺子屋方丈舎」「NICE」

はじめに

①エコツアーリズムという 《地域産業や地域興し》として

グリーンツーリズム
ブルーツーリズム
フォレストツーリズム
ヘルスツーリズム
ニューツーリズム・・・
名称の違いは便宜的。
違いより共通性、互換性、
普遍性が大事



海外のエコツーリズムは自然観光の仕組み 日本政府や業界は観光と地域の活性化

観光からこぼれた

里山や奥山では地域を元気にする
(観光以外の) 様々なアクションを
エコツーリズムと呼んで
取り組んでいる。

全国の中山間地
(過疎地)に
広がってきた

エコミュージアム
エコビレッジ
も同じ仲間

②中山間地域を舞台にした 《教育活動》として



森の幼稚園
学童保育
キャンプ



修学旅行
自然教室
ゼミ活動

③人につく 《呼び名・肩書き》として



指導員

スタッフ

リーダー

カウンセラー

インストラクター

レンジャー

インタープリター

ガイド

自然案内人

個人商店

フリーランス

コーディネーター

ファシリテーター

プランナー

名人・達人

つなぐ人

新しい呼称は新しい職業、活動、生き方が生まれた意味



④ 自然学校と呼ばれる 《活動の主体》として

森・山、川・から始まり
海、里、町、街に広がる



1、自然学校の台頭

自然学校の要件

(JEEF自然学校全国センターから)

自然学校

環境教育の
プログラムを
通年実施



「活動の場」
施設やフィールド



「常駐の専門指導員」



良質の自然体験活動に必要なもの 自然学校というシステム

- 環境教育の機会を提供するために、
 - ①良質な自然体験がおこなえる「活動の場」としての施設やフィールドがある
 - ②専門性を持った「指導員が常駐」している
 - ③自然体験や環境学習をテーマにした「プログラムを通年実施」出来る。
 - ④組織運営のための仕組みを作る「プロデュース」
 - ⑤組織と活動のリスクを管理する「安全管理」ができる

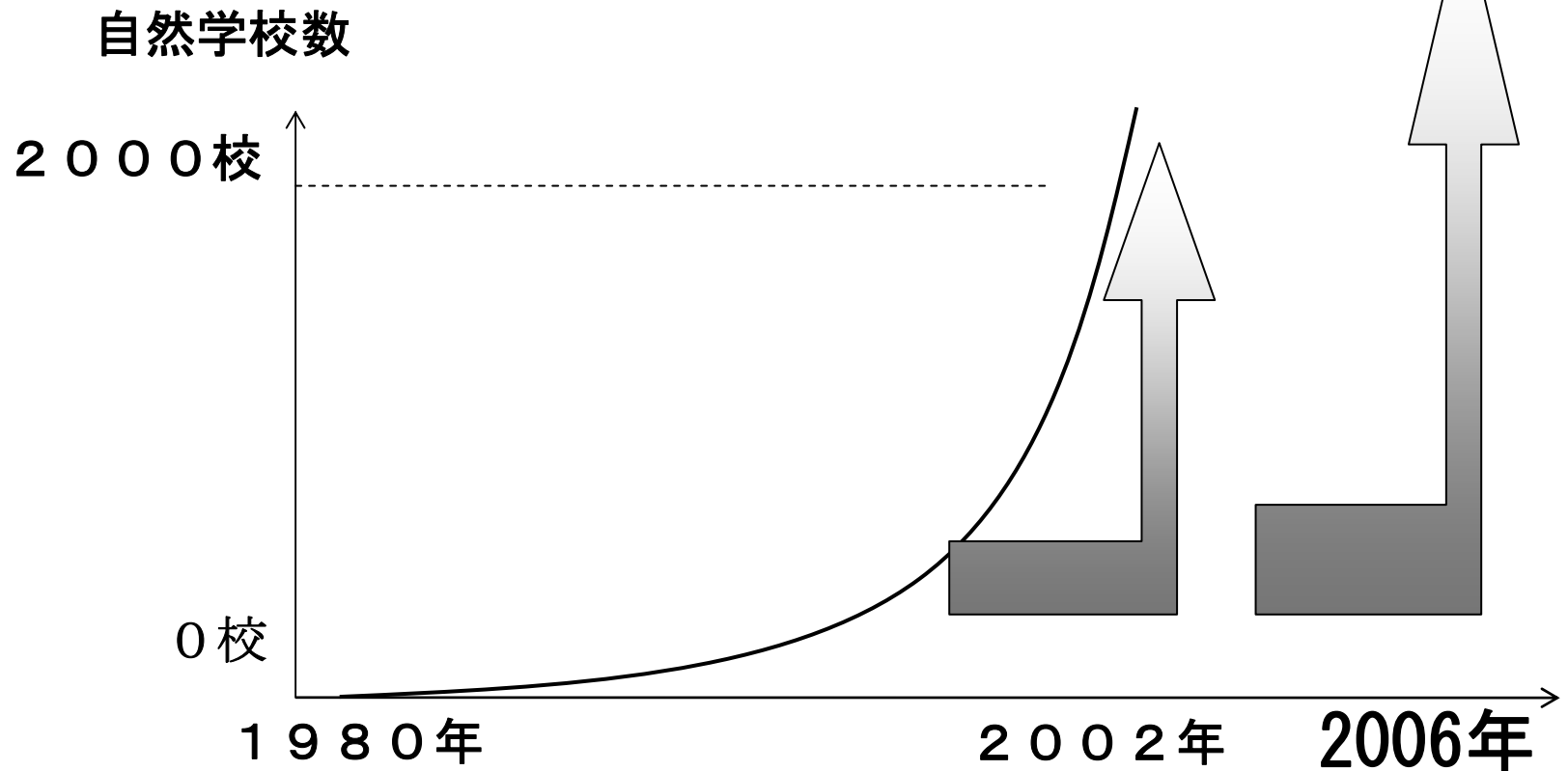
(JEEF自然学校センターの狭義の定義)

- ①自然学校とは「人與人」「人と自然」「人と社会」をつなぐ組織的な自然体験活動を指す。
- ②専門家の指導で安全に楽しく活動をする
- ③責任者・連絡先・プログラム・活動場所・参加者がいる

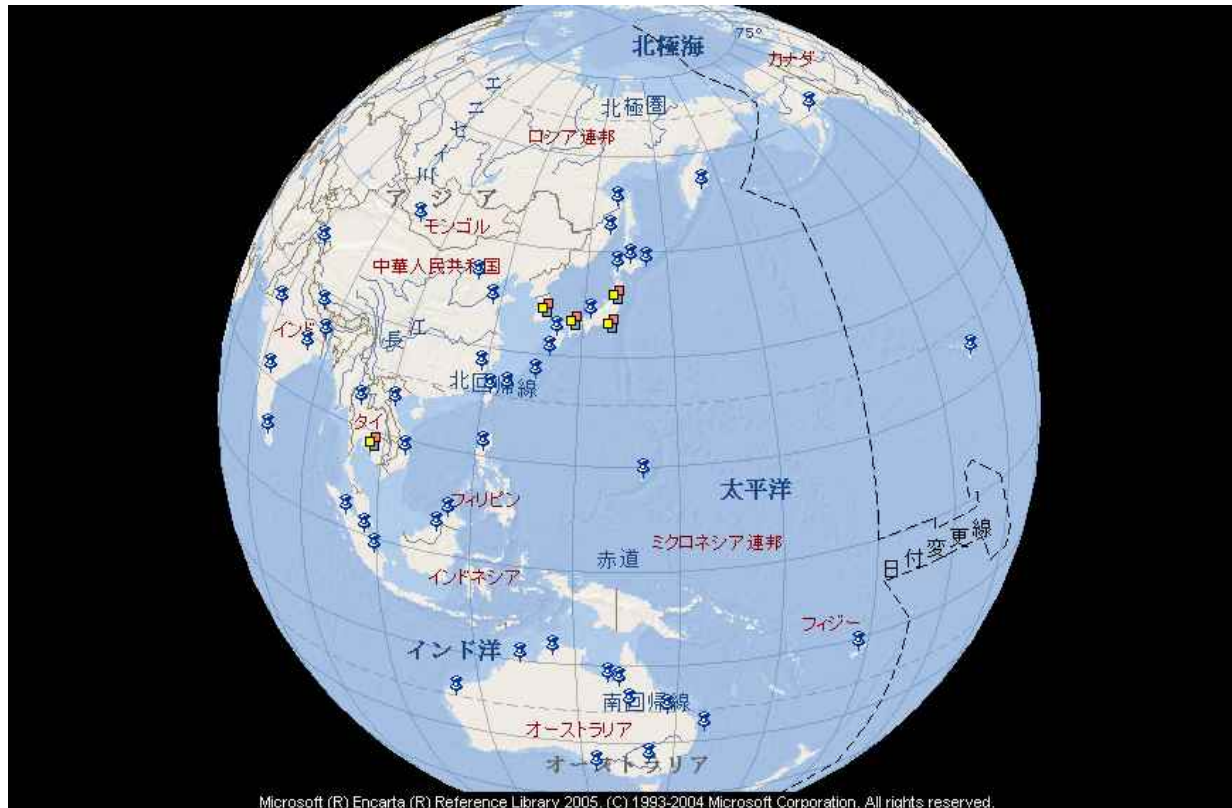
① 自然学校の誕生

自然学校は日本にどのくらいあるのか

約3000校



②日本と世界の自然学校



韓国・中国・インド・インドネシア・マレーシア・タイ・カンボジア・フィリピン・NZ・オーストラリア・ロシア・フィンランド・ノルウェー・チリ・ブラジル・ペルー・コスタリカ・パナマ・タンザニア・ガーナ・イギリス・スペイン・イタリア・ドイツ・フランス・デンマーク・スイス・オーストラリア・マラウィ・エチオピア・ケニヤ…………

日本＝3000校以上（2006年全国調査）

北米＝1万数千校（1996「自然学校宣言」シンポ）

※1999年、日経新聞「全米で夏休みに810万人の子どもが自然学校に行き、1兆5千億円の経済波及効果が出た」

③ 自然学校の全国調査

自然学校全国調査の歴史

■ 1999年 第1回自然学校全国調査

実施主体: 文部省(当時) / 野外教育プログラム研究会
調査回答母数: 62団 **主に民間の野外教育団体**

■ 2001年 第2回自然学校全国調査

実施主体: (社)日本環境教育フォーラム
(担当: ホールアース自然学校)
調査回答母数: 299団体 **主に民間のプロ団体**

■ 2002年 第3回自然学校全国調査

実施主体: 環境省 / (社)日本環境教育フォーラム
(担当: ホールアース自然学校)
調査回答母数: 2350団体 **主に官公庁関連の
公的団体と民間団体**

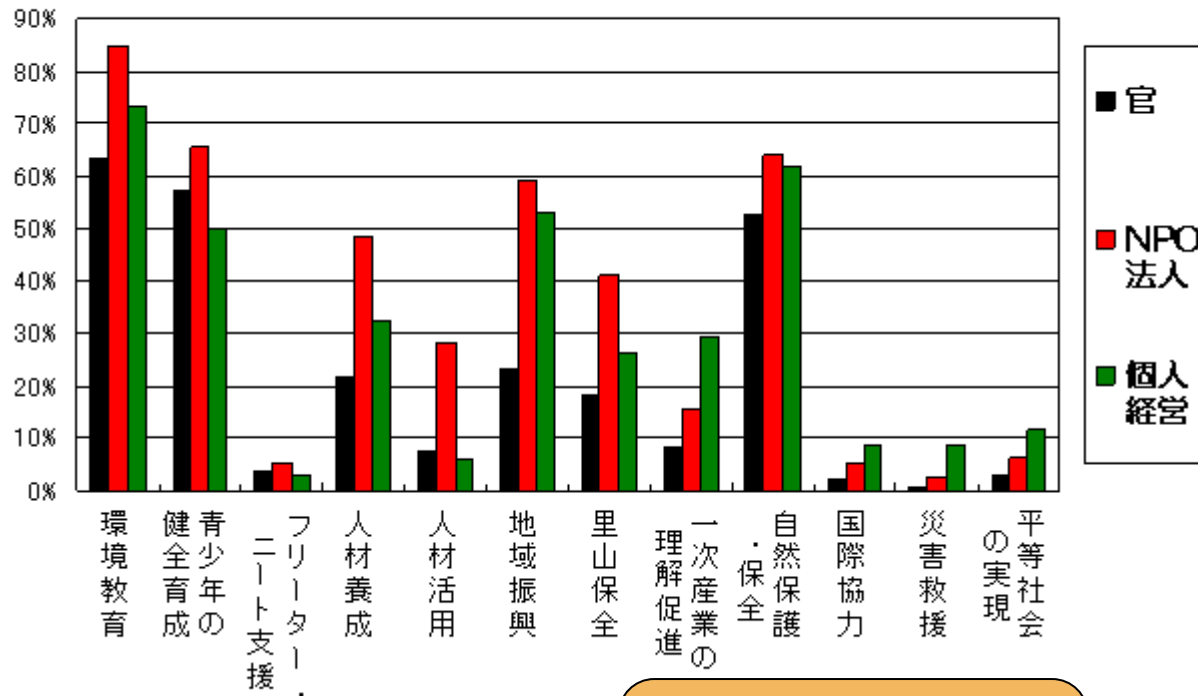
■ 2006年 第4回自然学校全国調査(今回)

実施主体: (社)日本環境教育フォーラム
(担当: ホールアース自然学校)
調査回答母数: 494団体 **主に民間の団体**

自然学校の現在2006

- ① 主たる活動目的
- ② 年商(年収)
- ③ 人材育成
- ④ 収入源の内訳
- ⑤ スタッフの男女比
- ⑥ プログラムと担当
- ⑦ 活動分野

組織タイプ別の活動目的

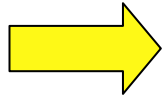


- ・環境教育
- ・自然保護
- ・青少年健全育成

が3大目的

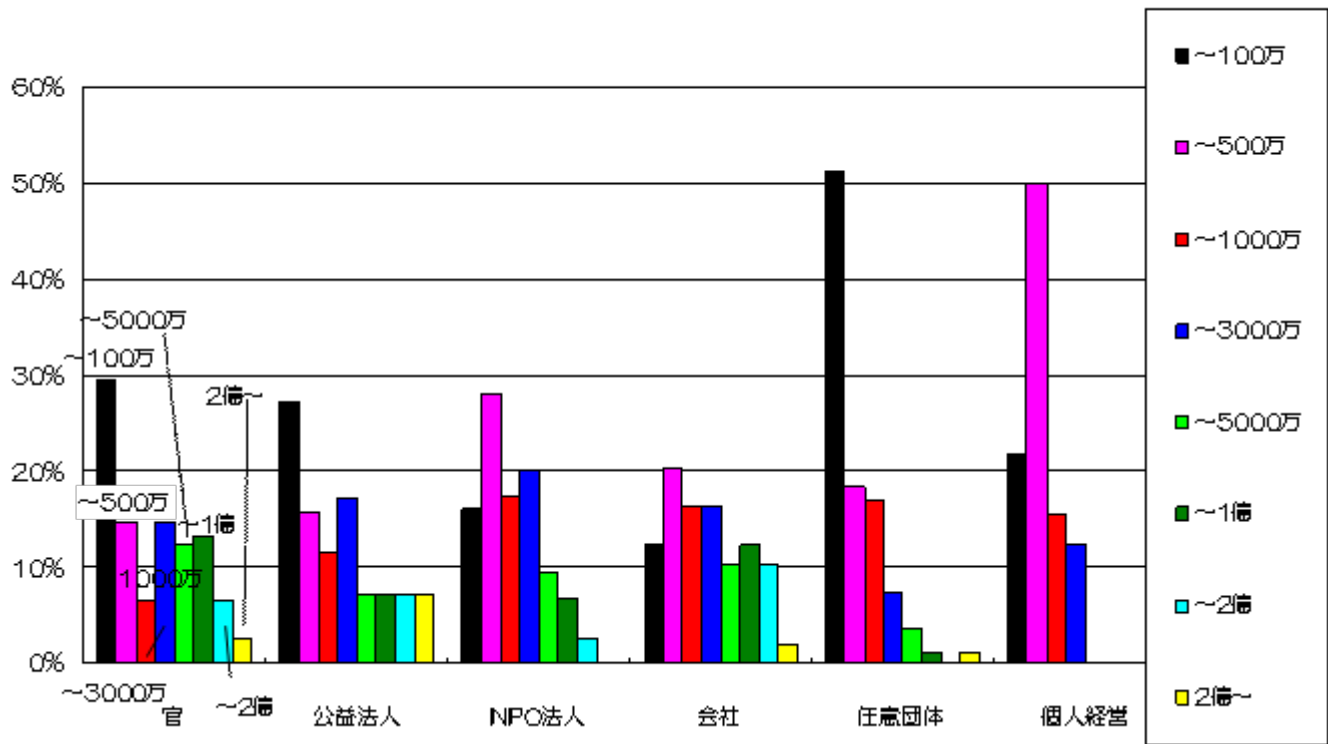
- ◆地域振興・人材育成・里山保全がつづく
- ◆新規な課題への取り組みは一般化していない

多彩な活動目的があげられた



生涯学習の推進
 自然とのふれあい
 理科・科学教育普及
 環境情報の発信

組織タイプ別の年商



◆官民とも100万未満が26% (前回02年調査は官37%、民間46%)

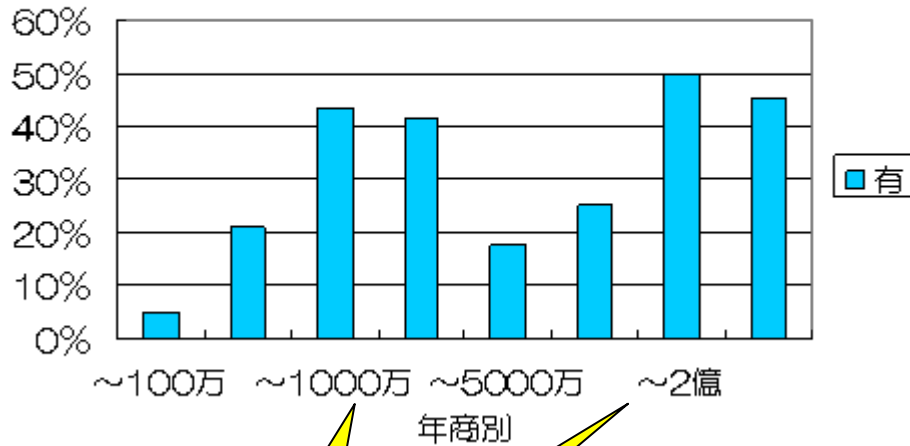
◆官とNPOは3000万の山

◆個人経営は500万がトレンド

個人は500万、組織は3000万
がぎりぎり安定ライン?!

年商×人材育成

人材養成制度整備状況

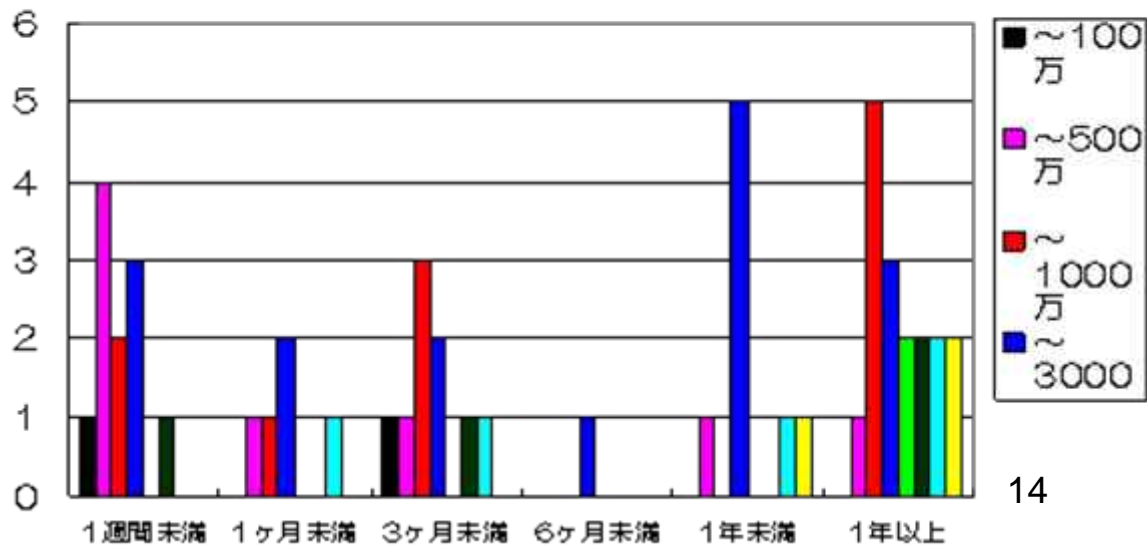


◆人材養成に力を入れるのは1000万
~3000万と2億円超の年商組

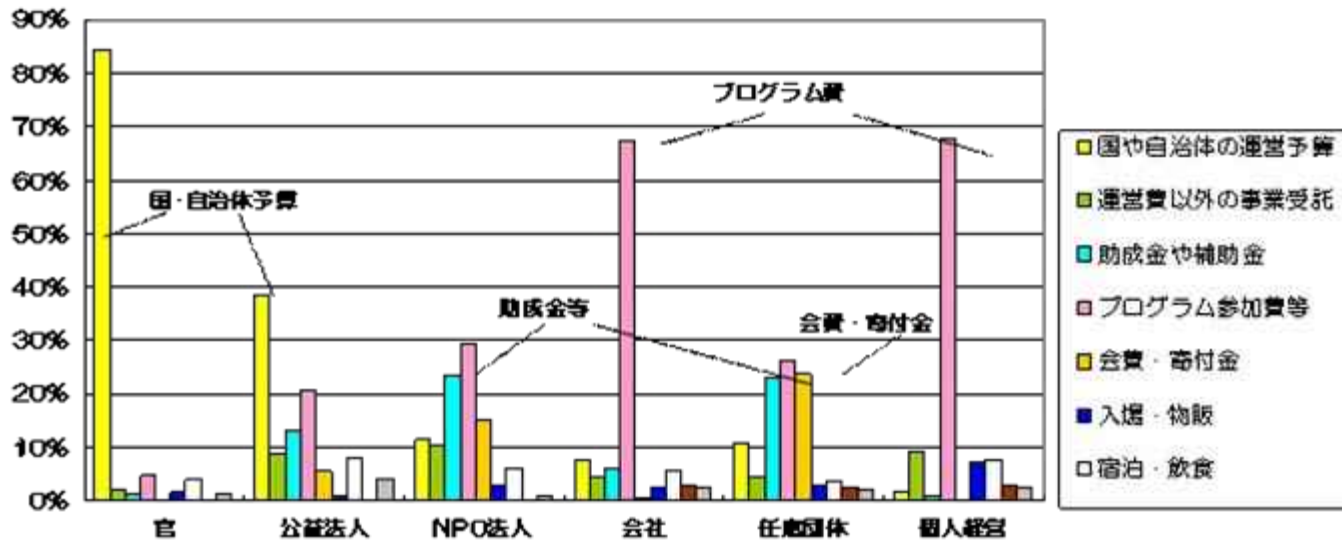
◆3000万~1億円層は指定管理で受託
した団体で人材育成の余裕や必要はなし

二つの山

実習期間の分布



組織タイプ別 収入源の割合



官……………運営予算85%

公益法人…運営予算39%、プログラム費20%、補助金13%

NPO……………助成金等24%、会費等15%、プログラム費30%

会社……………プログラム費67%、入場、物販、宿泊、飲食15%

任意団体…補助金23%、プログラム費26%、会費24%

個人経営…プログラム費68%

◆官・公益法人は行政の運営予算が大半

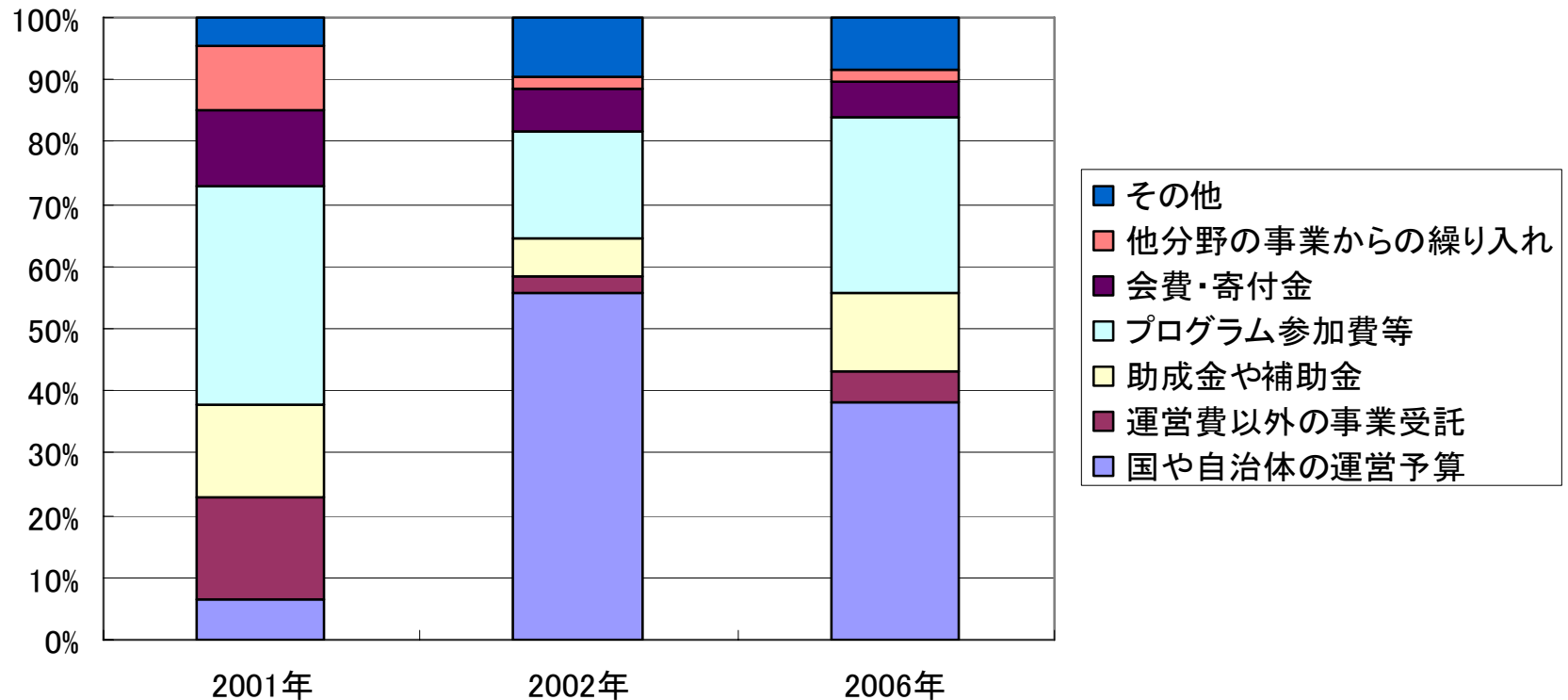
◆会社と個人経営は70%近くがプログラム費！

◆助成金補助金はNPOと任意団体が25%、公益法人13%

◆会費、寄付金は任意団体24%、NPO15%で収入源になりえない。

主な収入源の割合偏移

自然学校の主要収入源の推移

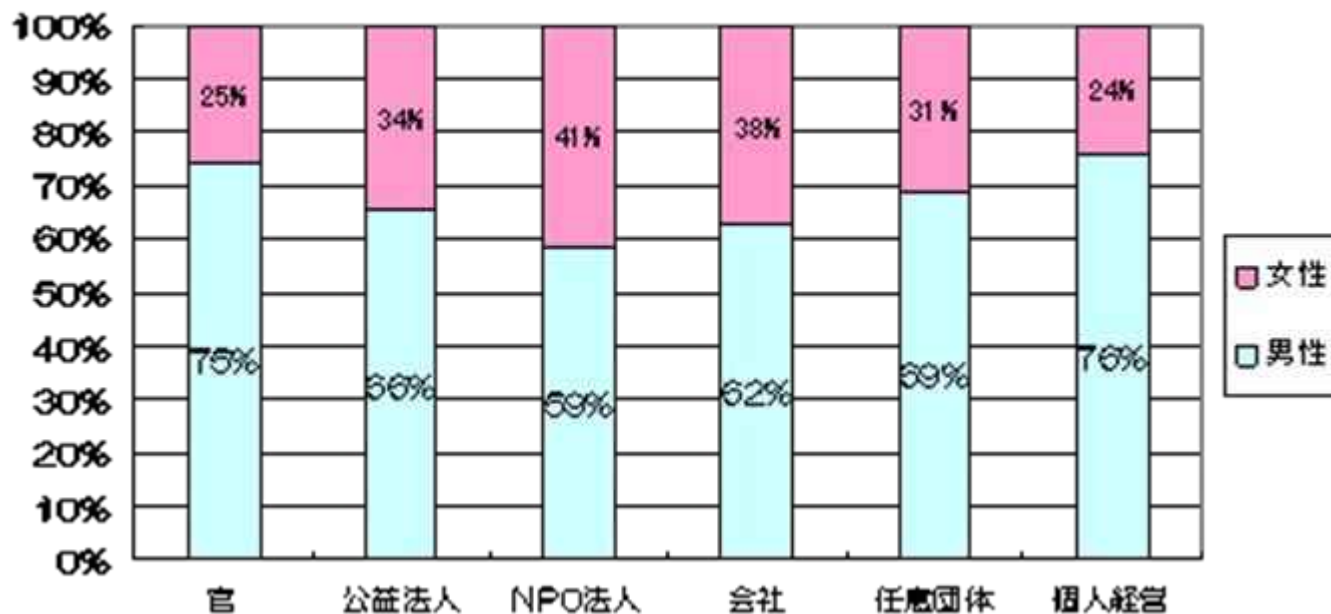


◆民間の年収も指定管理などの受託が増えた一方、調査研究など一般の事業受託は減っている。

◆プログラム収入が増えた反面、会費・寄付金の割合は大幅に減った。

◆2001年に見られた企業の社会貢献的な運営が減り、企業立の自然学校でもノルマが課せられている

組織タイプ×男女比



◆自然学校全体の平均値は男性68%、女性32%

※一般企業の就労人口比・・・男女比6:4、ただし女性の正規職員率17%(株主オンブズマン調べ)

◆ NPO/41%、会社/38%、公益法人/34% 任意団体/31%

プログラムと企画役・運営役・講師役

- ◆ **企画と運営**は官民とも92%が自給
(※2002年調査ではともに67%)

急速な自給率
のアップ

- ◆ **講師役**:官自給率35%、民間50%
(※同調査では官28%、民間43%)

講師役は多彩な人材の登用、地域
活用の点から、自給率向上が必ず
しも良い訳ではない・・・。

2007年
問題の関心

- ◆ **自然学校の主な参加者**

小学生39%、成人・中高年(40~65歳)14%
(※2002年調査では中高年世代への取り組み3, 3%)

中高年向けプログラムの開発が遅れている!

《今後増えてほしい参加者》に、中高年は8%のみ

業界の常識に反する結果?!

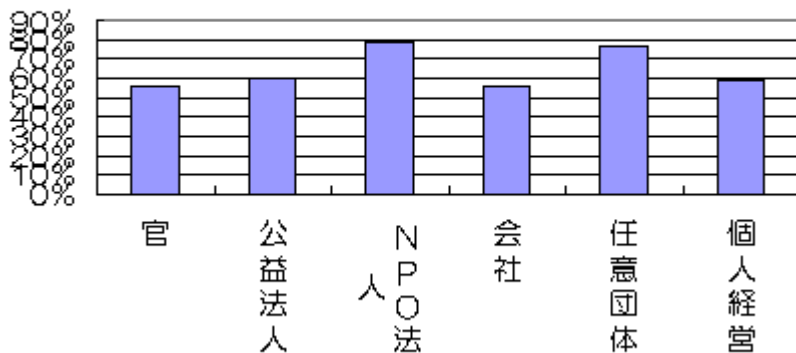
- ◆ **主な参加者の層**

子連れ親子31%、学校教育旅行20%
未婚の女性グループは2%?!

《今後増えてほしい層》でも最下位の16%?!?!!

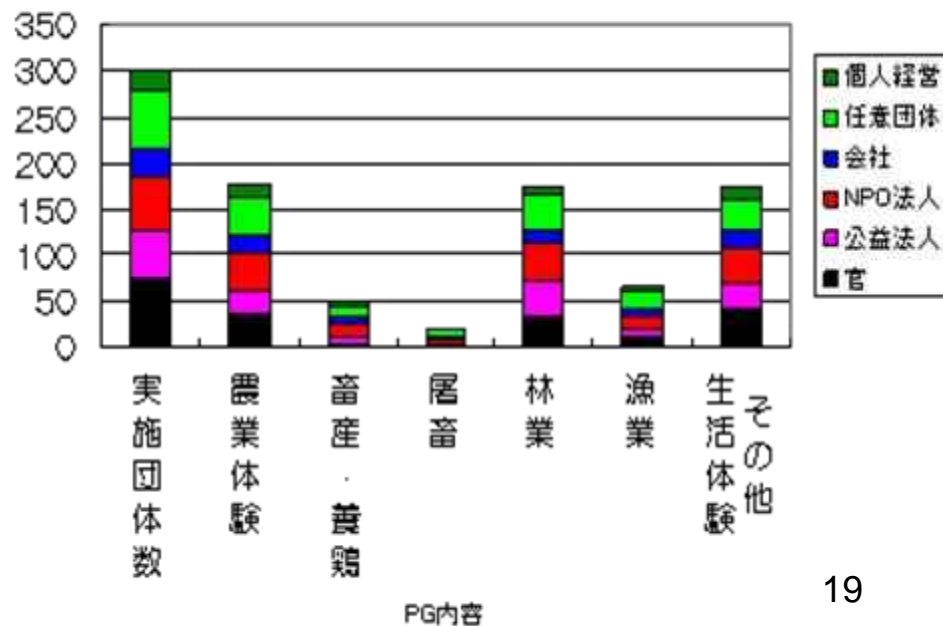
農業系プログラム実施状況

組織形態別農業系PG実施割合



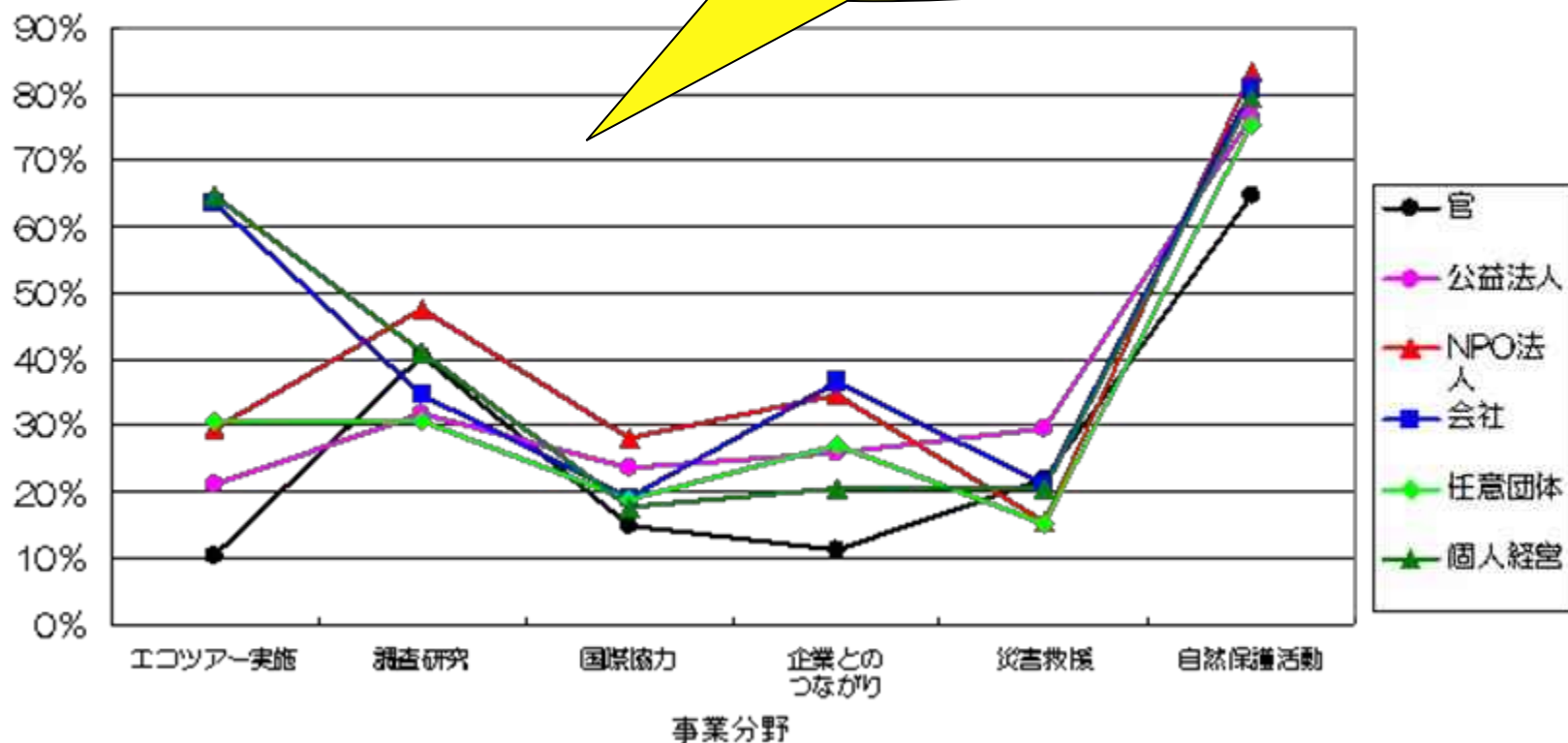
- ◆ 官は屋内型プログラム53%が多い
- 民間は地域活用プログラムが多い
- ◆ エコツアー型は民間が突出している
- ◆ 観察系は官が得意?
- ◆ 一次産業系は民間が2倍の高率
- ◆ パッケージ型は官に浸透してきた

PG内容別実施団体数



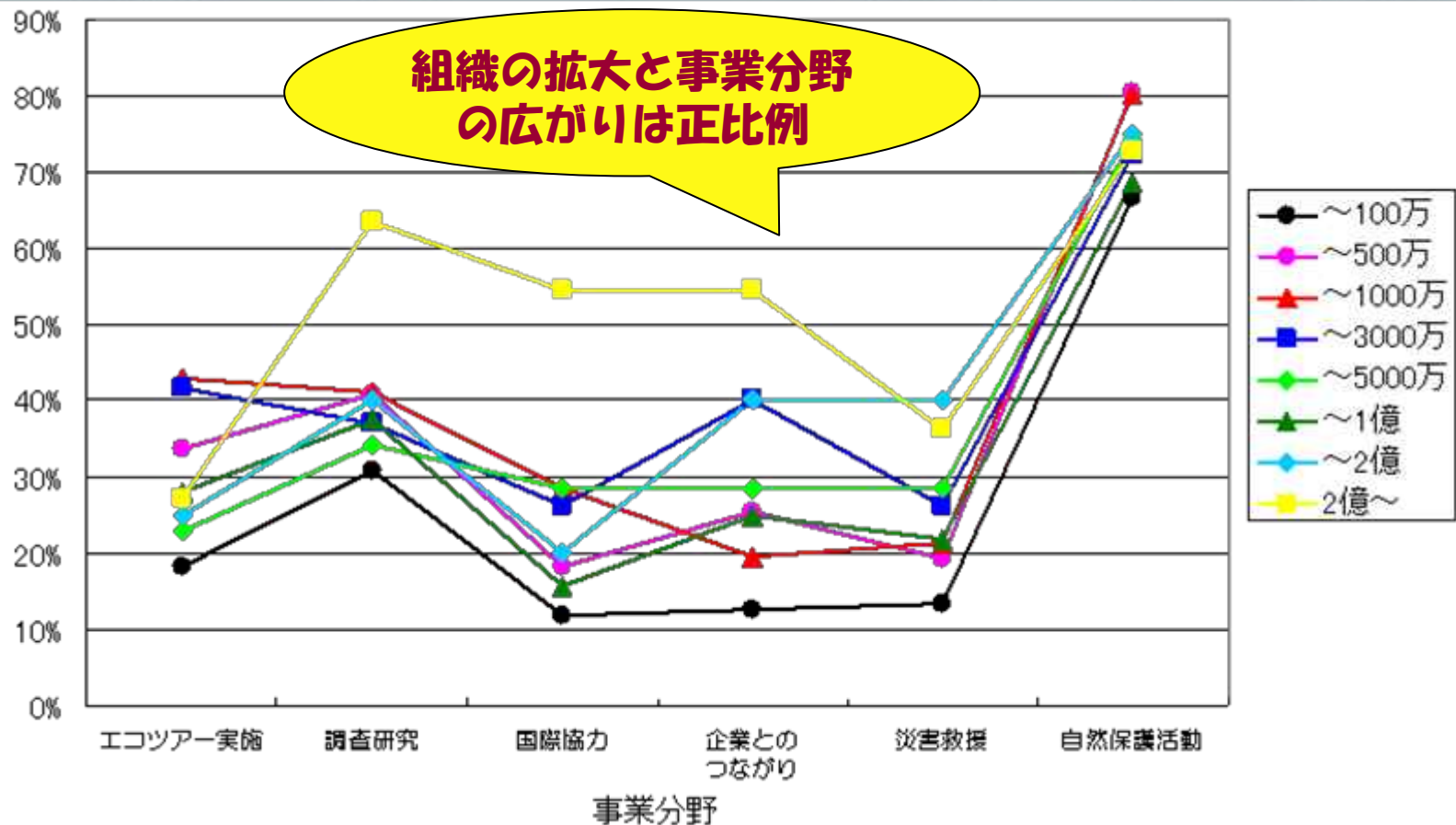
組織タイプ別の事業活動分野

広がる活動分野



- ◆民間(個人経営・会社経営)ではエコツアー65%の高率
- ◆国際協力、災害救援などNGO型活動は始まったばかり

年商別の事業活動分野



- ◆2億円超の大規模団体は調査研究、国際協力、企業連携など、専門性の高い事業が多い。
- ◆全団体が調査研究には取り組んでいる。

④ 自然学校のかたち

様々なテーマ

生き方・暮らし方をテーマにした自然学校

地域振興を担う自然学校

人材育成をすすめる自然学校

アウトドアスポーツの自然学校

自然体験プログラムに特化した自然学校

エコツアー型の自然学校

都市環境をテーマにした自然学校

幼児教育の自然学校

国際協力の自然学校

自然保護活動の自然学校

企業のCSRを担う自然学校

制度・政策づくりを担う自然学校

学校教育と連携する自然学校

異文化教育・開発教育に取り組む自然学校

④ 自然学校のかたち2

多様な運営形態



④ 自然学校のかたち3

設置運営主体	概要	例	メリット	課題
公設公営型	行政などの公的機関が施設を設置。プログラム運営指導も公務員や外郭団体職員が中心となつて行う。	国公立青年の家 国公立少年自然の家	・低価格でPGを提供できる。 ・宿泊研修ができる	職員が2～3年で異動し、ノウハウと専門性が蓄積されない 硬直した管理運営体制
民間独立自営型	専門性を持った民間の事業者が自ら自然学校を経営。資金的にほかのセクターに依存しない。	ホールアース自然学校 国際自然大学校 くりこま高原自然学校	独自の理念と立場に沿った自然学校経営ができる	社会的評価を得て、実績を積むのが困難。 経営的に自立できない事業者が多い。
企業立・民間委託型	民間の公益法人や株式会社などが施設を設置し、PG運営指導を民間の専門団体、事業者へ委託。	トヨタ白川郷自然学校 東京ガス 環境エネルギー館 東京電力「柏崎環境学校	冠企業の特徴を活かした経営ができる 運営予算は企業が負担する	社会貢献型の場合、低予算。 ビジネス重視型の場合、ノルマが課せられる
公設民営型 指定管理委託型	行政などの公的機関が施設を設置し、PG運営は受託した民間事業者が行う。	田貫湖ふれあい自然塾 山梨県自然ふれあいセンター、千葉自然学校	受託者にとって最初の設備投資が不要。 施設自体の社会的評価	行政担当者の意向で左右されるリスクが高い。 予算確保が困難。
個人(商店型)経営	フリーランス(個人)でPGの企画・運営やライトな受託を受けて行なう施設を持たない。	環境共育事務所カラーズ 風と土の自然学校 伊豆自然学校	身軽なスタンス。 プロジェクトごとに他者とチームを組める。	個人のキャラクターが唯一の資本。
NPO法人任意団体 (いわゆるボランティア団体)	収益は問わない。 スタッフも非常勤、無報酬が多い。	F-CONE、 いしかわ自然学校 京都自然教室	ネットワークを組みやすい ノウハウは共有しやすい	中核的な組織団体が生まれにくく、中心メンバーの負担が大きい 継続的な活動が困難

21世紀型社会企業体として 世界各地に急速に広がる

プロの自然学校とアマの自然学校
両方あっていい

たとえば、

小学校区にひとつのアマ自然学校がある

すべての子どもが

幼いときから何度か参加している

いくつかの町全体でひとつのプロ自然学校

アマとプロが役割を分け合って

だれもが自然学校に参加している

自然学校の台頭 事例①

ホーランドス自然学校





ホームマース自然学校

歴史: 26年前(1982)より事業開始

受講者数: 有料プログラム参加者8万人/年

スタッフ数: 常勤40人(全員が町内に居住)

年商: 3億円

子育て家庭11家族、家持ちも4家族

日本の自然学校の総数3千校の草分け

組織図



ホールアース自然学校
株式会社ホールアース
NPO法人ホールアース研究所

ホールアース富士山本校

がじゅまる自然学校(名護)

国立
田貫湖ふれあい
自然塾運営受託

神戸六甲山分校

新潟柏崎分校

NPOホールアース研究所本部

NPO沖縄ホールアース
那覇事務所

NPO岡山事務所

NPO新潟事務所



田貫湖ふれあい自然塾



ホールアース自然学校
富士山本校



岡山 閑谷学校



ホールアース自然学校の全仕事 10のテーマ

自然体験活動
プログラム

自然・環境
調査、研究

地域・農山漁村
振興事業

指導者・
人材養成

自然学校 全仕事

エコツーリズム
研究・開発

企業の社会責任
(CSR) 支援

国際協力
途上国支援

災害
救援

環境系ネットワーク運営支援

政策研究・提言

“自然体験・エコツアー”だけではない総合型の自然学校

自然学校の主催事業



年間**700回**を越す主催事業

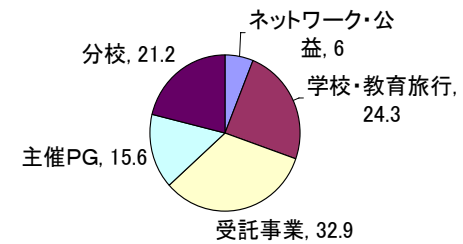
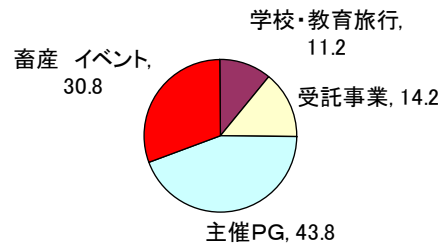
- 自然体験プログラム
- 集落文化体験プログラム
- 自然調査系プログラム
- 食農・食育教育プログラム
- 冒険・探険プログラム
- 飼育体験プログラム
- 国際協力プログラム
- 野外技術講習
- 環境教育・ESD講習
- 災害教育講習

➤メニュー例

(森林調査・森の手入れ・キャンプ・里山の知恵・カヌー・クライミング・熱気球・洞窟探険・登山・トレッキング・田舎伝統文化・アート・田畑手入れ・染色・紡ぎ・命を食べる)



ホールアース自然学校の収益



1994年
 年商:6千万円
 常勤職員:10名
 非常勤:35名
 分校:0校

1994年の法人格は有限会社。自然学校プログラムの柱の一つが《動物農場》というミニ牧場。家畜飼育と移動牧場、有畜複合農業の活動に多くの子どもや学生が参加した。学校団体の修学旅行受託はこの年から全国1位を2002年まで続けた。

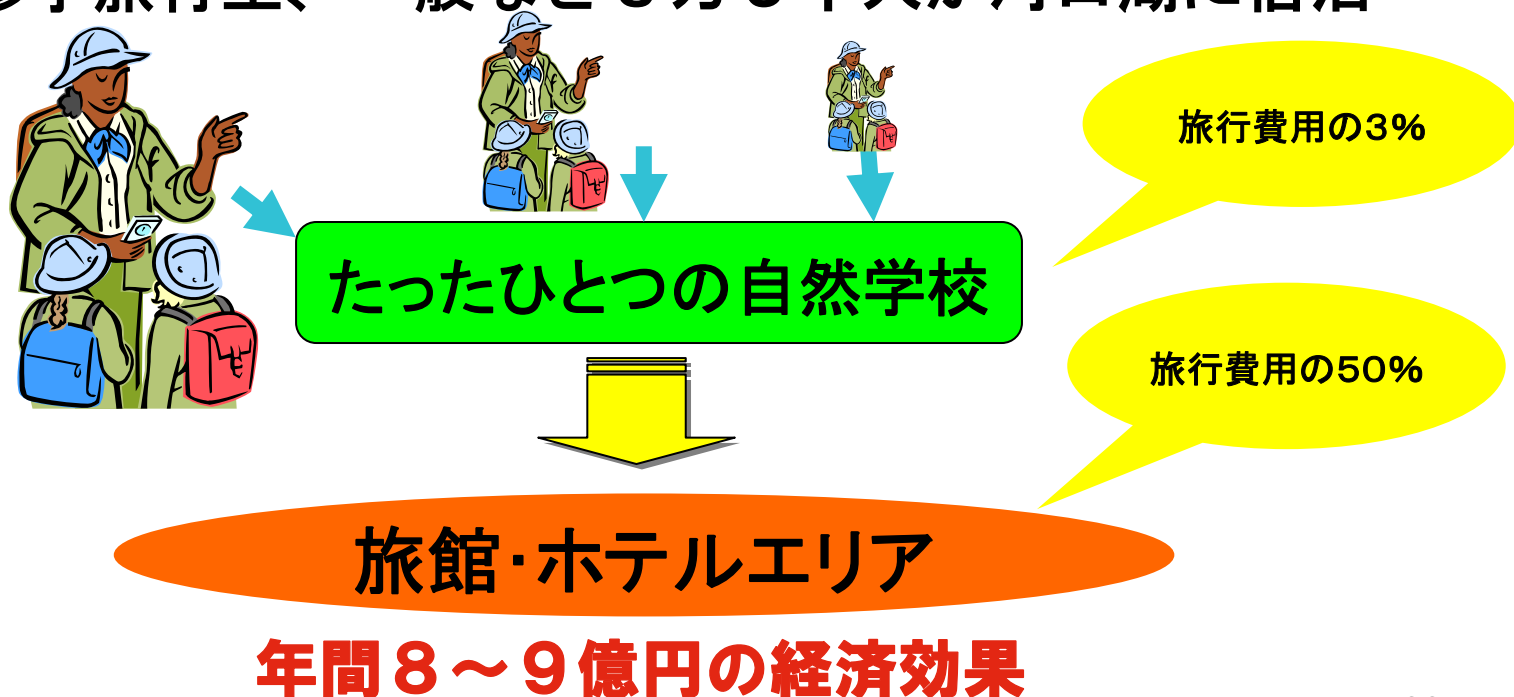
2008年
 年商:3億円
 常勤職員:40名
 非常勤:26名
 分校:5校

2008年段階のホールアースは多角的な事業や公益的な活動に分化。各種の調査、研修、地域活性化事業などが増える。結果として相対的な収益比率が変化。

自然学校の効果 2002年JTBF

富士山ろくの《自然学校》効果

- ・ ホールアース自然学校来訪者（年間6万人）のうち、修学旅行生、一般など3万5千人が河口湖に宿泊



富士山麓における自然学校

1982~1997 たった一つの自然学校
年／8~9億円効果



ホールアース自然学校の地元の
町出身の若者だけの自然学校も
生まれた



2004年 60校に上る自然学校が生まれ、
推定経済効果は年／50億円効果



自然学校事例② NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター



団体概要

- ・設立: 1993年(山村留学は1986年開始)
 - ・形態: NPO法人(2001年 内閣府認証)
 - ・本部: 長野県下伊那郡泰阜村(やすおかむら)
 - ・体制: 常勤職員16名
 - ・予算: 約1億円
 - ・業種: 青少年教育事業
- ①自然体験教育 長期山村留学・夏・冬のキャンプ等
②安全教育 リスクマネジメント・救命法講座等
③国際理解教育 北東アジア交流キャンプ等
- ・事業後援機関
国: 文部科学省(キャンプ)・林野庁(山村留学)
県: 長野県・長野県教育委員会
村: 泰阜村・泰阜村教育委員会

主な事業

地域に根ざし、暮らしから学ぶ教育活動を目指して

①1年間の長期山村留学 暮らしの学校いだらぼっち

- 参加期間 4月1日～3月下旬の一年間
- 留学生数 20名(小3～中3)※1986年からの延べ卒業生数330名

②夏・冬の自然体験教育キャンプ 信州こども山賊キャンプ

- こども参加者数 1200名(小1～中3 リピーター率32%) 青年リーダー参加者数 350名

③村の子どもの自然体験教育 伊那谷あんじゃね自然学校

- 村の子ども達が、村の暮らしの文化(自然、人、歴史等)を、村の住民から学ぶ
- 参加者数 村の小学生が毎回10～20名

④Kids' AU 子どもたちのアジア連合 北東アジア国際交流事業

- 日本、韓国、モンゴル、中国、ロシア等の子どもたちが参加するキャンプ
- 参加者数 550名 ※2001年からの延べ人数

受賞暦 官・民から15の実績

- 泰阜村村長表彰
- 博報賞 博報児童教育振興会(教育活性化部門)
- 毎日新聞社・防災甲子園奨励賞
- 信州日報文化賞
- オーライ!ニッポン 審査委員長賞
- 山村力(やまぢから)コンクール 林野庁長官賞
- 長野県青少年県民会議会長賞
- 「環境賞」日立環境財団
- 信毎選賞 信毎文化事業財団 ほか

マスコミ取材暦「テレビ・新聞・雑誌」300を超える実績

- NHK総合テレビ「春につぼん紀行」全国放送 炎と向き合う40時間 山村留学 国仲涼子～
- NHK総合テレビ おはようニッポン 全国放送生中継 山村留学
- NHK総合テレビ 元旦NHKスペシャル 全国放送 山村留学
- NHK長野放送局 イブニング信州 自然派宣言 スタッフ出演
- フジテレビ ビートたけしの日本教育白書直前スペシャル 11泊山賊キャンプに密着
- 日本テレビ メディアマガジン 山村留学のCMづくり
- TSBテレビ信州「およめさんのレシピ」
- 朝日新聞・読売新聞・産経新聞・中日新聞・信濃毎日新聞
- 雑誌 日経キッズプラス-AERA with Kids 他

地域広告効果
年間1億5千万円超

地域づくり・地域活性化 「観光資源のない村で」

Greenwood



■へき地における交流人口と定住人口増加について ⇒ コミュニティの再生へ

人口2,000人を切った泰阜村の交流人口は、年間約22,000人。その60%にあたる約13,000人はグリーンウッドが生み出す交流人口であり、都市と山村の良質な対流・共生が期待されます。また、グリーンウッドは16人の若者を雇用しており(村内団体第4位の規模)、へき地山村の宿命的課題である「若者の雇用の場」と定住を実現させています。さらに、グリーンウッドのスタッフは、減少傾向かつ高齢化傾向のある自治会や消防団など地域を支えていた住民組織の担い手としての期待にも直接的に応えつつあり、崩壊の一途をたどっていたへき地山村のコミュニティを再生させる具体的なモデルとなりつつあります。

■地域経済への波及効果について ⇒ 経済的な自立への挑戦へ

今やへき地山村においては成立困難となってしまった「自然環境を資本にした産業」。グリーンウッドは「都市と山村との交流を通じた自然体験教育」の切り口から、その産業化に成功しました。グリーンウッドの予算1億円のうち約7,000万円が地元の経済に直接的に還元されている他、交流人口増加による宿泊費や食材費、運送費、エネルギー費など、様々な間接的波及効果が村内に創出されています。村の有志が民宿経営を始めたり産直組合を立ち上げるなど、教育を中心として生み出された良質な交流人口をマーケットとする新たな産業の可能性が芽生えつつあり、経済的な自立に向けての挑戦が始まっています。

■へき地住民意識の質的な変化について = 地に足をつけた持続可能な地域づくりへ

「何もない」泰阜村の境遇を嘆き、「この村にはだめだ」と息子達を都市部に送り出してきた村民は、都市部の子ども達から泰阜村の価値をもう一度教えられました。そして、都市部の子ども達との交流を質的に豊かにしていくだけではなく、足元である泰阜村の子ども達のために週末自然体験を提供する活動も、村民自らの手によって組織化され始めるなど、まさに村の教育力が村民の手によって取り戻されていく取り組みが始まりつつあります。グリーンウッドの活動や村民の自立的な活動に刺激され、都市部に出ていってしまった村の青年達もUターンで村に戻りつつあります。山村留学という小さな取り組みを始めて23年。今、泰阜村では、まさに地に足をつけた持続可能な地域作りの歩みが始まっています。



キャンプで使用する野菜は1万5千食
ほぼ100%を村の契約農家に依頼



何もない村と否定していた高齢者が
価値を再発見し村議会議員に



手が入らない荒れた地域の山も山村留学の
薪の暮らしにより間伐が進む

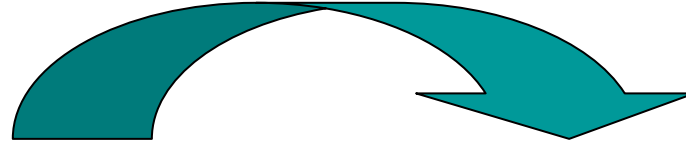
2、地域を元気にするエコツーリズム

日本的なエコツーリズムの展開

アメリカ・オーストラリア・コスタリカ・ガラパゴスなどで世界的に知られたエコツーリズムは、日本に入り、屋久島などの大自然地域から、わが国独特の里地里山里海の環境に舞台を移して発展してきた

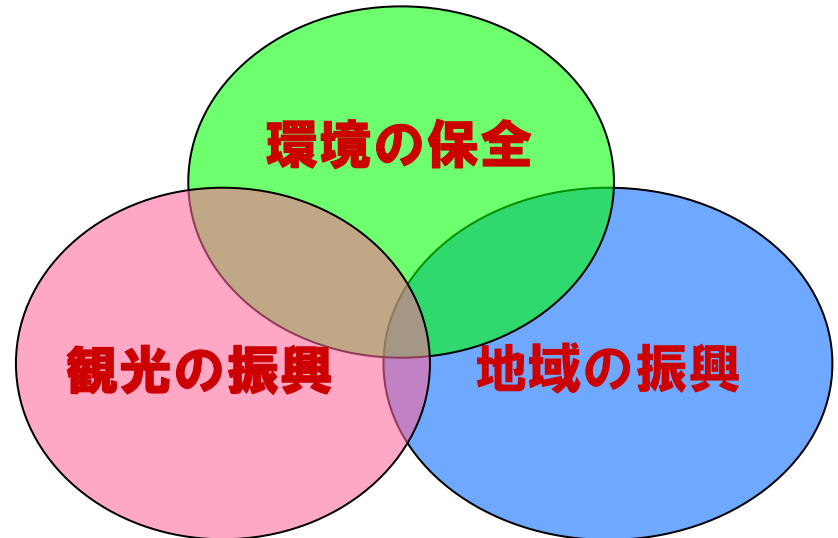
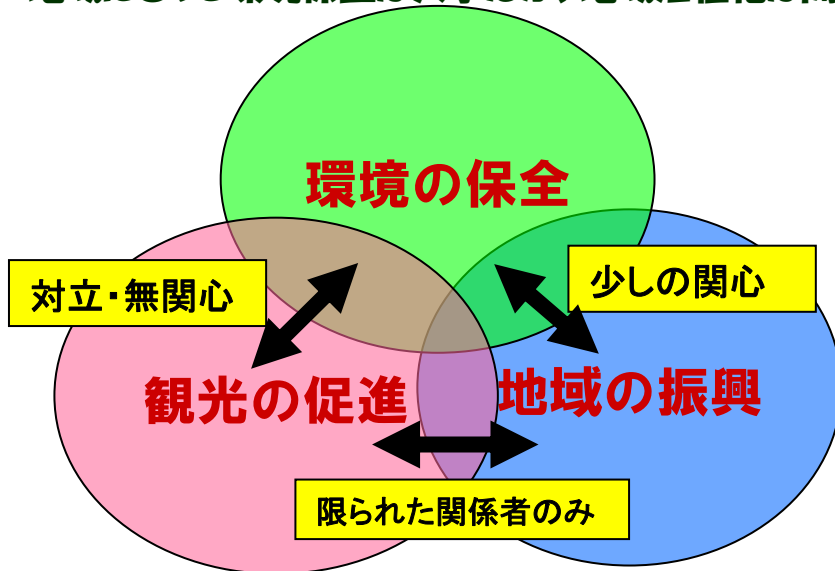
こうした日本型のエコツーリズムの実相は研究者よりも地域の現場が主導している

①これまでの観光、これからの観光



観光は自然、地域環境を使い捨てる形で増殖
観光と自然保護は対立関係
観光業に関わる関係者は限定的で地域住民は無関心
地域にとって環境保全は大事だが、地域活性化は開発重視

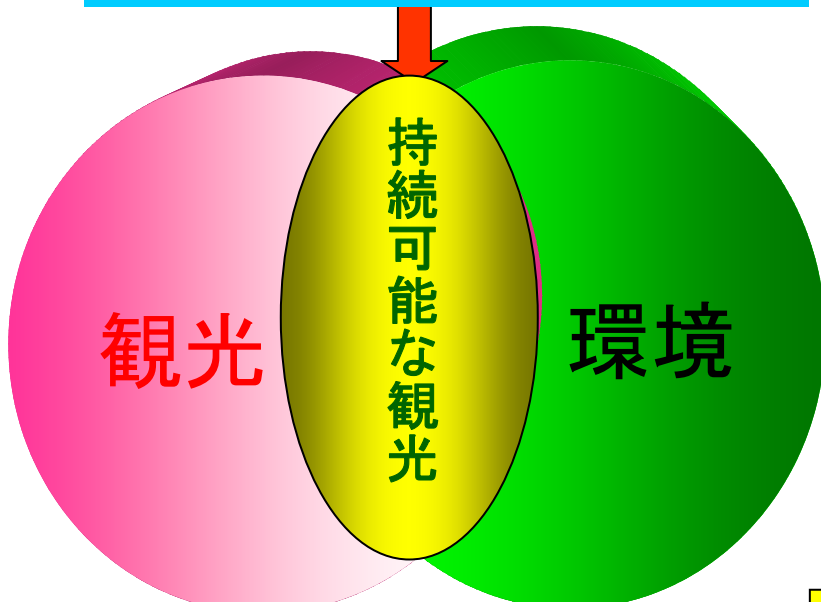
世界では、環境に配慮した新しい観光として、
日本では、持続可能な地域社会づくりとして、
環境保全、地域再生と経済を結びつけた活動として
世界各地に急速に広がる



観光や交流の資源とすることで新たな価値創造が生まれ、資源の保全と地域の活性化につながる

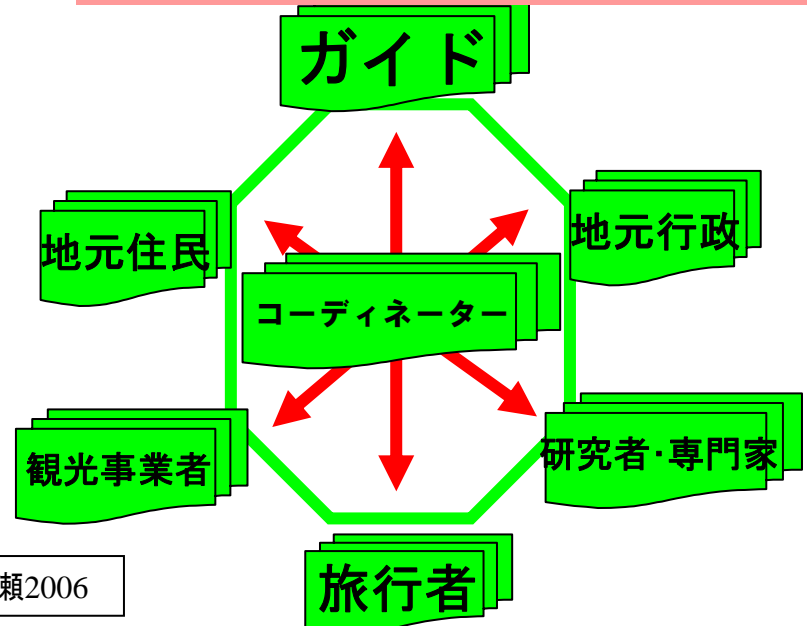
②環境を劣化させない観光と エコツーリズムを構成する主体

環境を劣化させない観光



観光化された地域・自然環境資源を劣化させない仕組みがエコツーリズム

エコツーリズムを構成する主体

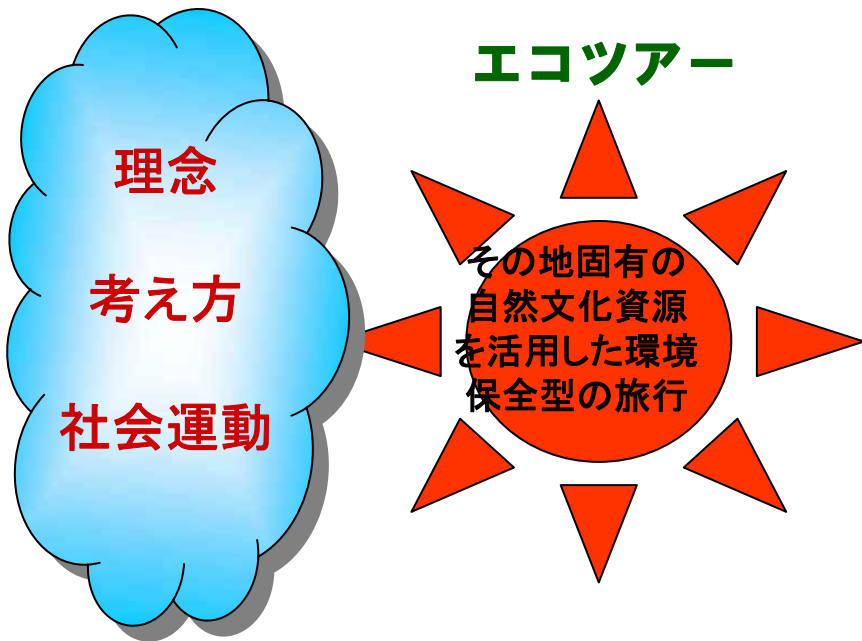


広瀬2006

観光業者と旅行者で作られてきた観光に、ガイドが加わり、《ガイドツアー》が始まる。ガイドと地域住民との摩擦が増加して、行政、専門家が加わり、地元住民を巻き込んだ仕組みができた。

③エコツーリズムとエコツアー エコツアーのテーマの流れ

エコツーリズム



エコツーリズムは考え方や社会的な運動。
エコツアーはその考えに沿った旅行

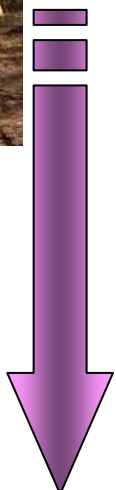
トレッキング
ハイキング
キャンプ
森歩き
バードウォッチング
自然探訪・ケイビング



ラフティング
カヌー
ホエールウォッチング
ダイビング・シュノーケリング



歴史・民俗探訪
伝統集落散策
農業農村体験
工芸体験...など



かつて、自然観光から始まったエコツアーは、
より体験的なメニューになり、さらに、日本
では民俗や文化がテーマの活動に広がった

④日本と世界のエコツーリズム

諸外国、欧米のエコツーリズム

- 1、そもそもが自然観光を指す
- 2、ウィルダネス(原生自然)の国立公園が舞台
- 3、金持ちの外国人が顧客(地元民の印象)
- 4、自然環境を管理(マネジメント)する思想(自然観)

わが国のエコツーリズム

- 1、自然、生活文化、人文歴史をも含む包括的な概念
- 2、集落や入会地、里地里山が混在する国立公園
- 3、都市と農山漁村の交流、児童生徒の環境教育
- 4、自然環境と共生、利用しつつ保全する「手入れ」の思想

⑤ さまざまな定義

エコツーリズムとは、自然環境や**歴史文化を対象**とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかたである。

エコツーリズムの実現のためには、**旅行者や観光事業者だけでなく、地元住民や地域の様々な産業を含む、地域における包括的、横断的な取り組みが必要であり、「環境」「観光」「地域」が深い関わりをもちながら取り組む社会のしくみづくり**である。

環境省

《エコツーリズム推進会議2003》

『エコツーリズムは、自然地域の中で観察し、研究し、楽しむ観光である』

国際自然保護連合 IUCN

『自然保護と人々の生活の向上に貢献する、責任のある自然観光』

国際エコツーリズム協会 TIES

諸外国では自然観光。
日本では観光を生かした
地域づくり

⑥ グリーンツーリズムと エコツーリズム

グリーンの中のエコ

グリーンツーリズム

エコツーリズム

GTの多くはエコ
的だがそうでない
GTもある

エコの中のグリーン

エコツーリズム

グリーンツーリズム

GTは農村での活動
だが、ETは海、山、
街などフィールドを
問わない

⑦地域づくりに役立つ エコツーリズム

◆子どもの教育
(地域(故郷)への誇り、愛する心)

来訪者による効果

子どもの教育
(地域(故郷)への誇り、愛する心)

◆人づくり・人材発掘
(新たな生きがいの創出)

プログラムによる効果

◆地域の活性化
(都市交流・地場産業の参加)

交流による経済効果

地域を元気にする
エコツーリズム

地域の活性化
(都市交流・地域産業の参加)

人づくり・人材発掘
(新たな生きがいの創出)



エコツーリズムの地域効果：

広瀬 敏通2006

地域おこし・人づくり・子どもの教育・ライフスタイル
地域社会のありかたを変えるエコツーリズム

たとえば・・・山村過疎のスタイルとは

山暮らしの知恵めぐり の場合

冬の保存食

有畜複合農業の実践

山里で生きる技術・知恵

素朴な信仰

自分の素のままの姿を知る

手入れの文化

かつて、日本中に有ったはず・・・が、
いまや、どこにもない

たとえば・・・農山漁村のスタイルとは

最初から専門はありえない

ガイドという仕事の場合

半分、農業

半分、林業

半分、大工

半分、商店

半分、〇〇

半分、会社員

自分ができる方法があるはず

これからの観光は

誇りある地域

看板

語学力

エコロジ

ガイドとガイドライン

ホスピタリティ

ほんもの

技

おもてなし

市民参加

着地型

生き方暮らし方

統一と調和

こだわり

丸
繋

懐かしさ

カーボンオフセット

歩く道

生物の多様性

あるがまま

田舎

質素

旨い水

地産地消

地讀地奨

住民参加



事例① 高知県 エコ幡多



エコ幡多プロジェクトの内容

- ◆エコ幡多メンバーの専門性を生かした各種調査。
(地域の自然資源の発見、認識)
- ◆漁協と連携、協力して、海上の漂着物の撤去。
(海岸線の美観の向上)
- ◆行政と廃校の利活用やエリアの問題点を検討。
(雇用の創出の可能性)
- ◆地域住民から、地勢や地域文化の聞き取り調査。
(地域の価値の再認識、再発見)
- ◆コンサルタントや専門家によるアドバイス。
(正当な評価と裏付けの獲得)

- 幡多半島全体でのエコツアーの可能性を模索
- 地域を核にした、地域協働ツアーの展開
- ウォータータクシーや漁家民宿などの産業創生
- 幡多半島のエコツアーマップの作成

かなり欲張っています!!
本当に出来るかな?
By メンバー

今年が目玉ツアー(予定)は、これ！

- 沖の島アドベンチャーラン

島を丸ごとコースにして、種々のレースを開催

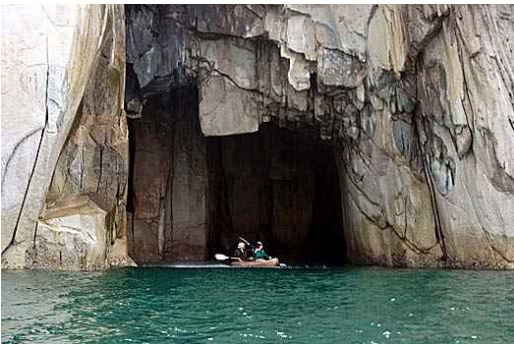
- 四万十ドラゴンラン

源流から河口まで196kmを人力で移動

- 幡多半島エコツアー

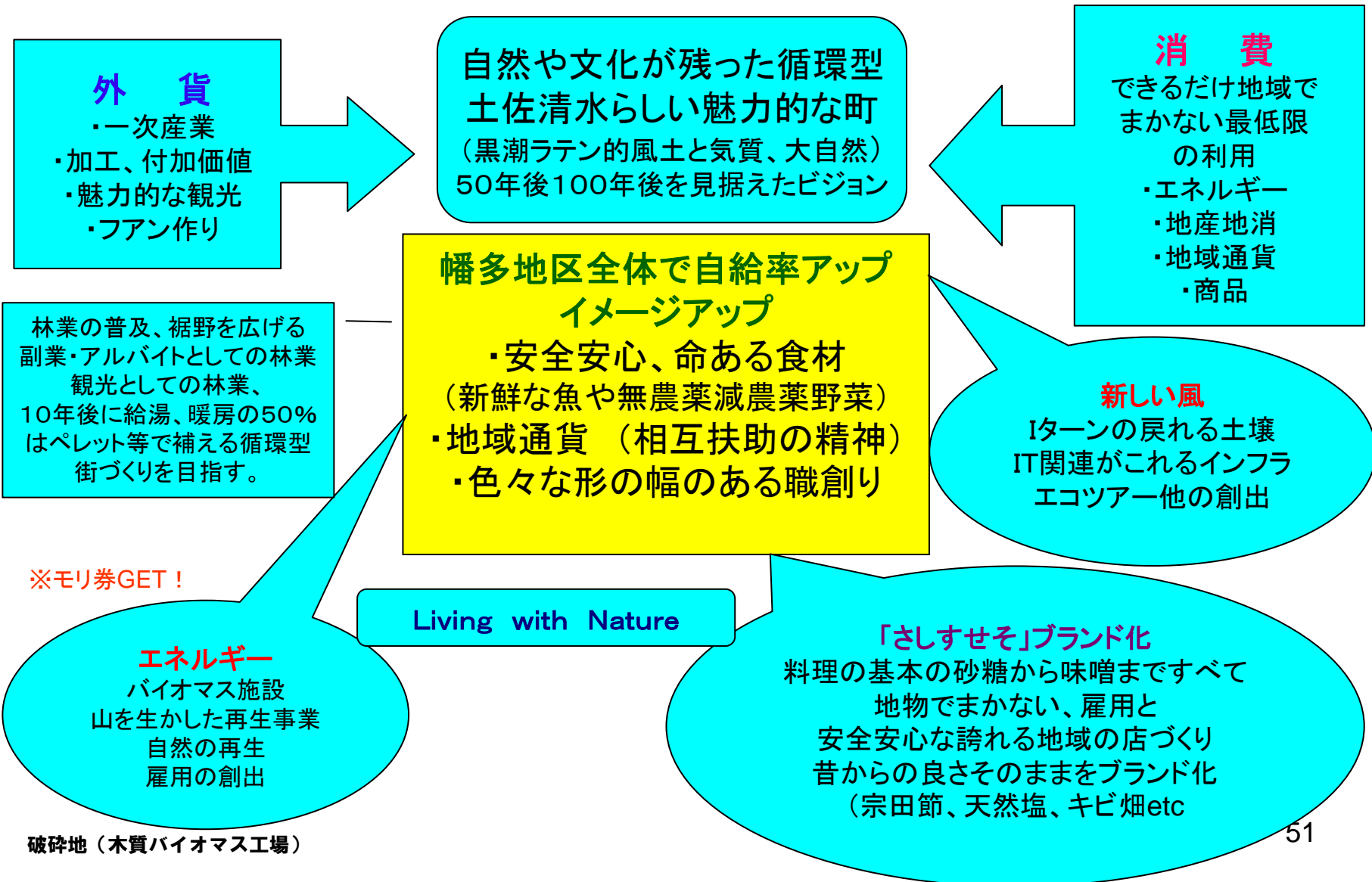
ライバルは、NZのエイベルタスマンのツアー

- 幡多半島ロングステイプロジェクト



沖の島アドベンチャーツアー

幡多の目指す循環型の街とは



森林を利用した街づくり

民間

- ・一次産業
- ・加工、付加価値
- ・魅力的な観光
- ・ファン作り

清水らしい循環型の町のモデル
誰もがもっと山に親しめる
しかけづくり
自然を守る、雇用を創出する

行政

- ・告知宣伝
- ・事業の促進
(補助等の申請等)
- ・幡多のイメージ創り
(循環型の地域)

林業の普及、裾野を広げる
副業・アルバイトとしての林業
観光としての林業、

- ### 間口を広げイメージアップ
- ・2009年3月間伐ボランティア立ち上げ
(土佐の森のサポート)
 - ・山に入る準備、土台作り

竜串再生協議会とのリンク

- 間伐のシステム創り
- ペレット工場等の誘致
- ペレット等の普及活動

竜串観光振興会・西部NPOネットワーク

エネルギー

5年後にはエネルギーの30%
10年後に給湯、暖房の50%
は間伐材等で補える循環型街
づくりを目指す。

雇用

3年後には1日5000円程度の
アルバイト代ができるシステム
5年後には雇用が生まれ
10年後には1000人規模

地域元気

地域通貨等を利用して
地元の小さな商店を元気にできる
仕組みづくり
軽い気持ちで林業に取り組める I
ターン者の誘致

※モリ券GET!

事例②沖縄県東村 やんばる自然塾

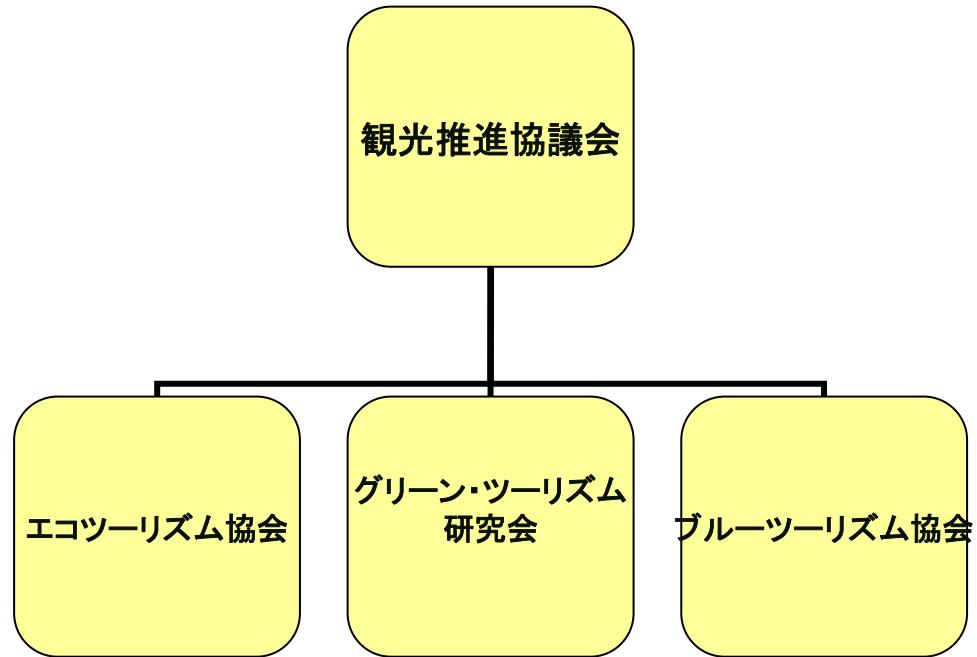


- 那覇市から90km(2時間)
- 6つの集落があり、人口約1,900人
- 主要産業→農業(50%)
- パイナップルの生産量日本一
- 花と水とパインの村

山、原「やんばる」



東村観光推進協議会 組織図



1989年 東村商工会設立

1995年 夢つくり21委員会

ホールアース自然学校 現地調査開始

1996年 村おこし委員会

ホールアース沖縄校、東村で開校

1999年 エコツーリズム協会

沖縄県エコツアーガイド研修開始(以後7年)

2005年 東村観光推進協議会

やんばる自然塾設立

1999年 設立(沖縄県エコツアーガイド研修会第1期生)

2000年 修学旅行・エコツアー受け入れ3000人

2002年 修学旅行9000人受け入れ(150校)

●安全の確保

●環境の保全活動

●地域への還元

●地域への波及効果

●地域ガイド



地域が元気になる！！

沖縄県東村

10数年前にはパイン不況、サトウキビ不況で主産業の農業が崩壊状態。

そこにエコツーリズムという言葉が降ってきた。

過疎、交通不便、観光に無縁だった東村にガイドが生まれ、エコツアーが始まった。

やま学校 うみ学校では地元の年寄りたちが先生役

ついでに基地の見返りの金も巨額に降ってきて、観光施設建設ラッシュ始まる



地域が元気になる！！

●10年以上前の慶佐次

- 戸数 50戸
- 人口 170名
- 過疎化の進む村
- 観光客もほとんどいない
- 観光サービス業⇒0
- 食堂などの飲食店も無い
- 若者の働く場がない
(農業と土建業のみ)

●現在の慶佐次

- 戸数 70戸
- 人口 200名
- 国指定慶佐次湾のヒルギ林
- 年間観光客数 20万人
- 観光サービス業者 約10社
- 修学旅行など年間300校
- 地域の業者の雇用
ガイドが約25人
- 慶佐次共同店の活性化

地域が元気になる！！

エコツーリズムが東村にもたらした効果

- ① 東村の認知度が上がった
- ② 自然環境保全に対して村民意識の高揚
- ③ 観光客が増えた(エコツアー・修学旅行・県内のレジャー客)
1999年:1万6千人⇒2005年:20万人
- ④ 経済効果(農産物が売れる・食堂・喫茶店・民宿・ハーブ園・工房が続々)
- ⑤ 他の体験交流事業への参加者の増加(ブルーツーリズム協会・農業体験
農家民泊・伝統芸能)
- ⑥ ガイドをする人が増えた
- ⑦ 若者が帰ってきて、ガイドや関連の仕事をはじめた
- ⑧ 新たな地域リーダーが生まれた
- ⑨ 集落がきれいになった

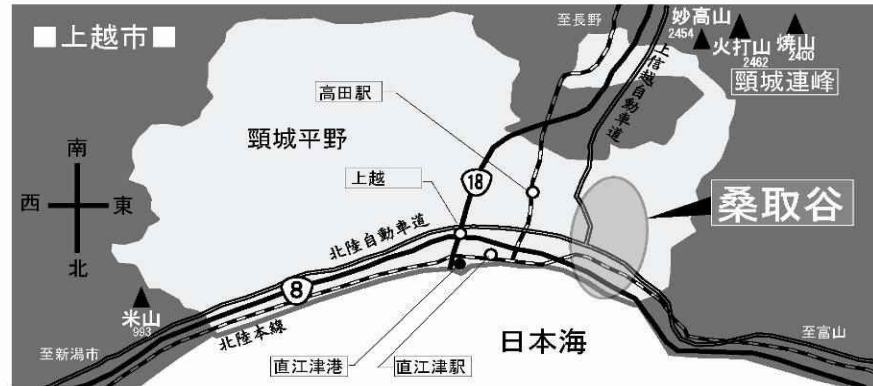
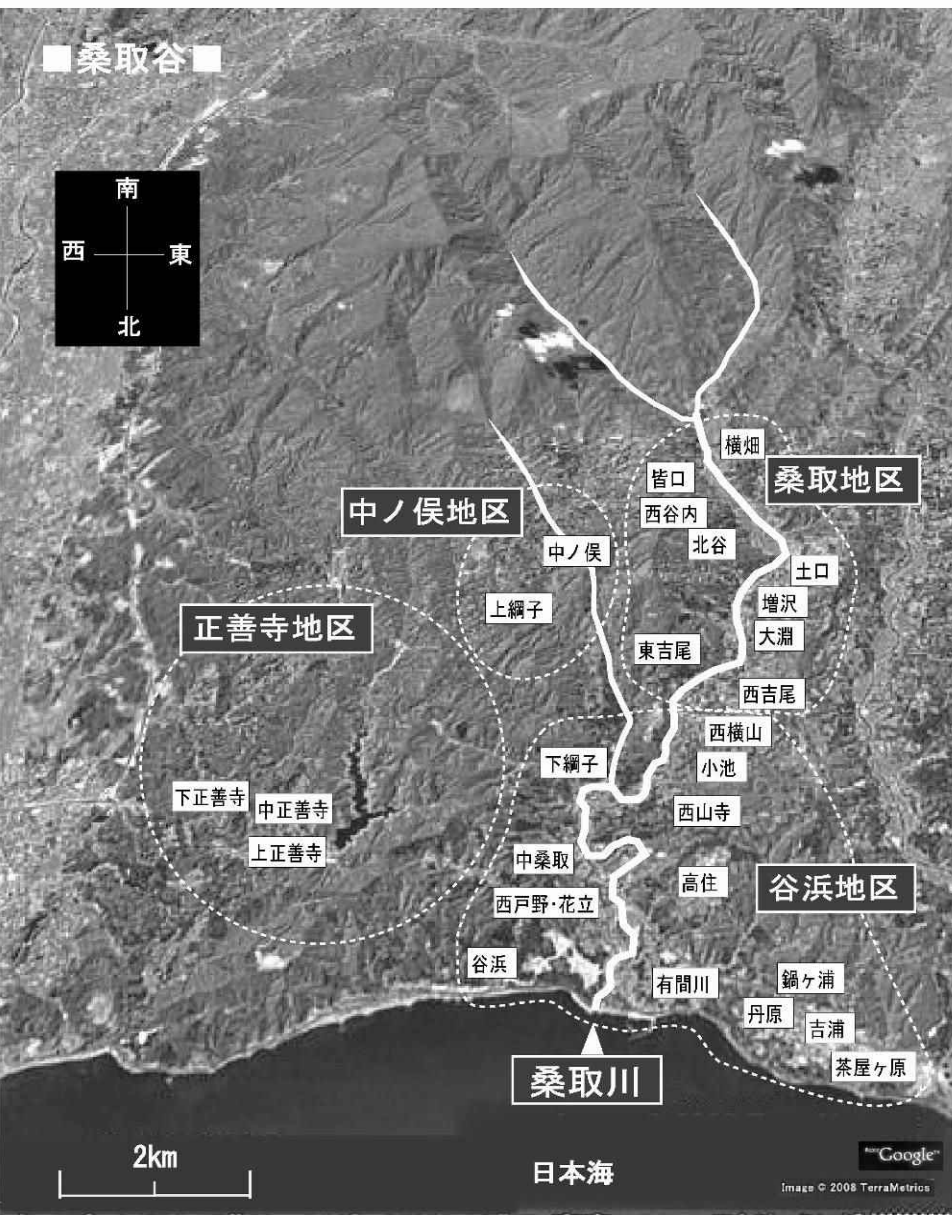


(東村エコツーリズム協会HP参照)

事例③新潟県上越市

結

NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部



■活動の始まり

何百年間
あたりまえに
あり続けてきたものが
10年後には
消えるという事実



目の前で静かに
進行しつつあること

表1 伝統生活技術レッドデータ
(平成13年 木と遊ぶ研究所調査)

危機レベル	技能種	技能保持者人数	技能消滅推定年数	技能項目	
A	石工	1	0	家屋工事・営繕に関する技能	
	水車作り	1	0	家屋工事・営繕に関する技能	
B	茅場手入	2	7	家屋工事・営繕に関する技能	
	竹加工	9	8	民具に関する技能	
	養蚕	6			
	薪の採集	8	9	生活物資に関する技能	
	炭焼き	44			
	炭焼き窯作り	12			
C	土間作り	4	11	家屋工事・営繕に関する技能	
	茅葺手伝い	44			
	縄加工	58			
	薪作り	10	13	生活物資に関する技能	
	井戸掘削	10			
	薪炭林の管理	7			
	一本ぞり	32			
	家畜飼育	58	14	その他の技能	
	棚田手入	44			
	棚田畦塗り	36			
	ヤス	2			
	素手	17			
	15	杉林手入	82	15	森林景観に関する技能
		投網	9		水辺景観に関する技能
D	雑木林手入	9	16	森林景観に関する技能	
E	大工	7	22	家屋工事・営繕に関する技能	
	左官	5	24		

<レッドデータレベルランク付け基準表>

技能消滅推定期間	レッドデータレベル
0~5年	A
6~10年	B
11~15年	C
16~20年	D
21~25年	E
26~30年	F
31年以上	G

*山里景観を保全するために伝承すべき技術を絶滅の危険性の高いものからレッドレッドデータレベルとしてランク付けを図った。

*伝承限界年齢を80歳とし、
[伝承限界年齢]-[技術保持者年齢]
=[技術消滅推定期間]とした。

基本理念

山里の自然、景観、文化
地域の農林水産業を
「守る・深める・創造する」

活動内容

- 受託事業
- 地域活動の支援
 - 地域資源の調査・記録
- 地域資源の掘り起こしと活用
 - 新たな「仕事おこし」へ

■ 受託事業

上越市中山間地域を中心とした、環境、地域産業などに関する事業
ならびに教育的事業の受託・実践



上越市地球環境学校



上越市くわどり市民の森

- 環境教育施設管理・運営
- 環境教育指導者養成プログラム実施
- ドングリの森整備モデル事業
- 上越市みどりの少年団プログラム実施
- 上越市体験農園・古民家施設管理 等



■ 地域活動の支援／地域資源の調査・記録

① 民俗行事、伝統技術再現行事などへの参加・記録



小正月行事

春祭



地元活動団体
昔ながらの農作業再現イベント

■ 地域活動の支援 地域資源の調査・記録



草刈作業



② 地域清掃・環境保全活動など
地域活動を支援

川清掃



収穫祭



用水清掃

■ 地域活動の支援 地域資源の調査・記録

③ 地域教育連携事業



平成17年度より
地元小学校との連携
により
放課後活動を開催



■ 地域資源の掘り起こしと活用

① 伝統行事再現

小池地区
「虫追い川舟」



横畑地区小正月行事「馬」



「里の嫁入り」



「夢に出てくる盆踊り」

博物館的な懐古から
新たな時代に合致した
資源へ



鼓童メンバーによる和楽器コンサート
「ゆきあひライブ」



里神楽を満月に奉納する
「月満夜の神楽」

■地域資源の掘り起こしと活用

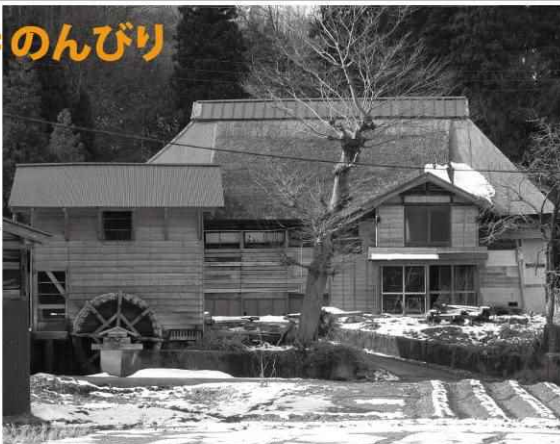
②自然体験活動や各種イベント・米販売事業などの実施

古民家改修で里山に隠れ家。

ことこと村づくり学校

「ことこと」= のんびり

舞台はかみえちごの里山。
海から15キロ、谷の終点にある
小さな村の古民家に、
新しい息吹を吹き込みます。
地元の職人に教わりながら大工仕事。
初めての方でも気軽に参加ください。
「ことこと」は村の言葉で、
のんびり、ゆっくりの意味。
作業のあとは、
ふるさとのような風景のなかで、
時には空に流れる雲をながめ
時には星空のような蛍をながめながら
薪風呂で汗を流すもよし。
囲炉裏端で一杯やるもよし。



日時 / 作業内容

'08 5月17日(土)	■開校式/ことこと村案内/道具と安全
6月21日(土)	■大工仕事の基礎をマスター
7月19日(土)	■ことこと改修作業(板壁貼り・内装整備等)
9月13日(土)	■ことこと改修作業(板壁貼り・内装整備等)
11月22日(土)	■かや刈り/かやぶき屋根の材料集め
12月13日(土)	■ことこと村冬支度(雪囲い等)
'09 2月21日(土)	■雪国のくらし(除雪・冬のお楽しみ)
3月14日(土)	■雪野原を歩く(かや降ろし)/卒業式

各回 10:00~16:00 ※作業終了後「放課後囲炉裏端会」あります。
(詳しくは裏面をご覧ください)

参加費

- 年間参加費(全8回) 20,000円
 - 各回参加費 2,800円
- (参加費には講師代・道具費出代・材
料費・保険料・資料代が含まれます)



場所

新潟県上越市横畑地区
古民家「白川邸」

定員

各回15名程度
(年間参加の方を優先させていただきます)

申込み/お問合せ

各回実施1週間前まで
(年間参加は5月10日(土)まで)



ことこと村民募集
各回15名程度で作業を5年ほど続けたい
「ことこと」村民。古民家改修費用を補助
してくれることこと助成村民を募集しています。

申込み/お問合せ
NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部
〒949-1734
新潟県上越市大字増沢962-1
Tel./Fax. 025-541-2602
E-mail. kamiechigo@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/kamiechigo/
(担当：三浦絵里)

かみえちご

上越後の絶景棚田で、心も体もとびきりおいしいコシヒカリづくり

第5期

棚田学塾

海と山の恵み豊かな新潟県上越の里山で
自分の田んぼを持ち 年間を通して
棚田での米作りを楽しみながら 一緒にこの棚田の景観と
里山の文化を守っていきましょう
そして 自分で作る一番安心できる棚田米を
堪能してみませんか

- 開催期間…平成20年4月~11月
- 会場…新潟県上越市中ノ俣地区
- 内容…年間を通じての稲作作業
- 参加費…35,000円/田んぼ1区画(約1アール)
(収穫した米はお持ち帰り頂けます)
2区画以上お申し込みの場合は、
1区画/20,000円と割引になります。
- 対象者…個人・グループ・ご家族(子ども及びお1人
だけのご参加はできません)
- 定員…20区画(お申込み〆切4月13日(日))



峠をいくつも越えると忽然と現れる桃源郷のような場所、中ノ俣。
ここには一枚一枚が小さな水鏡のような昔ながらの棚田が広がって
います。

全て手作業のこの棚田での米作りは、手間と根気のいる仕事。し
かしだからこそ味わうことのできる収穫の喜びは何ものにも代え難
いものです。

茅葺き屋根の集落に炭焼き小屋、牛舎など、昔話にでてくるよ
うな村の風景の中には、私たちが忘れてきている自然と共に生きてい
くための知恵が息づいています。

どっぷりと里山に浸って、昔ながらの米づ
くりを学びたいという方お待ちしています。

ふれあい…

講師は里山ぐらしの達人。お米の作り方だけでなく、
とっておきの知恵と技を伝授してもらいましょう!



* お申し込み・お問合せ先 *

NPO法人 かみえちご山里ファン倶楽部 (担当:松川)
〒949-1734 新潟県上越市大字増沢 962 番地 1
TEL&FAX: 025-541-2602
e-mail: kamiechigo@nifty.com HP: <http://homepage3.nifty.com/kamiechigo/>



■地域資源の掘り起こしと活用

②自然体験活動や各種イベント・米販売事業などの実施

冬
さんぜくライフ

登山車自由に駆け回る「さんぜく」馬のよう
に「寝てあそぶ」「寝を切る」「寝と生きる」

●寝の受け入れ
●ひねり蓋製作
●冬の森たんけん
●さんぜく(の蓋)製作
●ごぼん作り
●折れせん などなど!

日にち:2009年3月7日(土)~8日(日)
開催場所:新潟県上越市桑取谷(横畑、皆口、増沢)
対象:小学校3年生~中学校3年生
費用:8,000円(1泊3食、入浴料2回、保険料を含む)
※路線バス代700円が別途必要となります。
※申し込み済み、お問合せ先>
NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部
TEL/FAX 025-541-2802
E-MAIL kamiechio@nifty.com

子どもがひとりで行く
夏のふるさと探検
~自然の中の遊び・学び・子どもの自主性を育てる~

自分でお金を払ってバスに乗り、桑取谷までやってきます。
あたりに広がるのは、自分のうちはなんだか違う風景です。
古い民家、いろいろな生き物がいる豊かな森、桑取川の清流。
すべてが最高の遊び場です!
最後は、温泉に入って、汗を流します。
ひとりでなんでもやってみる、たくさんの仲間に出会う。
もりだくさんの夏休みの1日、ぜひ参加してみませんか。

新1弾★川遊び編
日時:7月29日(火)、30日(水)、31日(木)
7:20集合~18:15解散
申込み締切日:7月18日(金)

新2弾★森遊び編
日時:8月19日(火)、20日(水)、21日(木)
7:20集合~18:15解散
申込み締切日:8月8日(金)

対象:小学校1~3年生
費用:各回ひとり3,000円(保険代、活動費、郵送費など)
*その他、旅費(バス代、風呂代:1,000円)やおこづかい(上限1,000円)が別途必要となります。
*服装はお弁当をお持ちください。

定員:20名
会場:上越市くわどり市民の森、桑取川、くわどり湯ったり村、ゆつたりの家
*集合・解散は、イトーヨーカドー前バス停留所です。

<申込み・問合せ先>NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部
*お申し込み、問い合わせは、TEL/FAX:025-641-2802 まで





農作業実習

環境教育プログラムサポート



H17 第二回ばかん集会議開催
(地域振興の実践者フォーラム)

H19～ JICA地域開発研修受け入れ

H20 経済産業省2年目研修受け入れ

H20 農林水産省実施「地域産業マネ
ジャー育成研修」受け入れ ほか

■ その他

インターン・研修受け入れ



古民家改修実習

地域交流



■かみえちごの課題

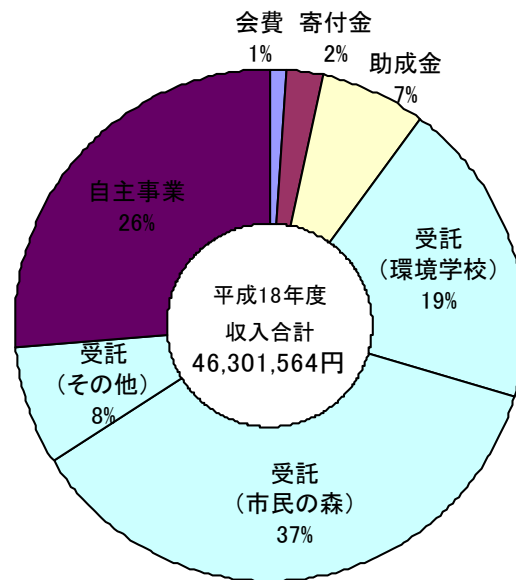
①財政面での自立

- ・受託事業に人件費を頼ることによる雇用の不安定性。
- ・先行投資ができないことによる、事業の制限。

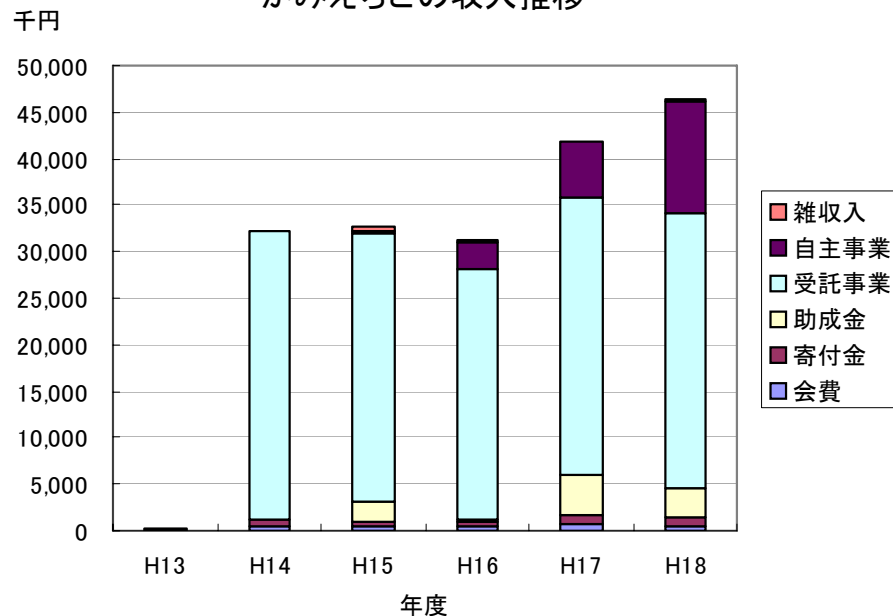
②「場づくり」が急務

- ・「財政面での自立」を支える「産業」の場の創造。
- ・地域住民の声を拾い上げる場の創造。
- ・地域、都市、資源、行政、団体、企業などをつなぐ「媒体」としての専門性を持つ人材を育成する場の創造。

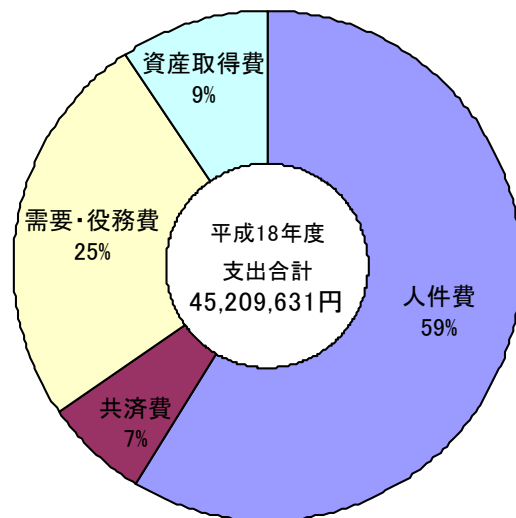
かみえちご収入内訳(平成18年度)



かみえちごの収入推移



かみえちご支出内訳(平成18年度)



生活技術を学ぶ 里山学校構想

ショートスクーリング 四季のまかない塾



■ **生きる**・・・地元里山・里海の達人が教えてくれる、山から海まで。谷の暮らしの知恵と手技の極意。

く う	農:畑作・稲作・加工
	林:山菜・きのこ・木の实
	水産:川・湖沼・海・魚・貝・海藻
す ま う	畜産:牛・豚・鳥
	狩り:ウサギ・カモ・ムジナ・イノシシ・クマ
	山仕事:草刈・間伐・ツル切り・伐採
つ か う	木材加工
	職人:木挽き・大工・屋根屋・左官・石工・建具
	水:横井戸・用水・川水
ま も る う な が る	燃料:炭焼き・火おこし・ポイ・モミ・ニヨ
	道具:作る・手入れ
	絹・綿・麻:養蚕・栽培・紡ぎ・染め・織り
ま も る う な が る	有用動植物:薬草・指標生物・防虫・防菌
	危険回避:危険動植物・地すべり・雪崩・気象
	結:草刈り・用水整備・川清掃・景観保全・獣害対策
和:祭・行事・あそび	

里山・里海生活三大要素を凝縮

食をまかなう

■山さわぎ

山菜とり・塩蔵川魚とり

■畑ごと

夏野菜作付け

■田しごと

田かき・あぜ塗り

住をまかなう

■作る・繕う

カマ研ぎ・包丁研ぎ

■材をとる

森の整備
切り出し・皮むき

■自然をよむ

囲炉裏火おこし

結をまかなう

■祭

春祭り

■共同作業

川清掃
草刈り

■語る・あそぶ

お茶のみ・酒飲み
座禅

●結(ゆい)とは、何事も人力に頼っていた時代に、協力して労働力を交換し合ったことをいいます。

※平成19年度は夏の回からの実施となるため、カリキュラムに一部変更がございます。詳細につきましては送付資料をご覧ください。

■ **うらづける**・・・様々な専門分野を携えてこの地に集まったNPOのスタッフが、科学的な視点から桑取谷を読み解き、わかりやすく講義します。

農林水産学	桑取谷の農業・田の一年・土作り・夏野菜の一生・日本の山菜・桑取谷の漁業・日本の農業と食糧問題・日本の林業と森林問題・菌と発酵
自然科学	水循環・森の生態系・川の生態系・海の生態系・世界の環境問題・日本の環境問題・土壌・桑取谷の環境問題
社会学	桑取谷の民俗と歴史・桑取谷の地形・日本の中の上越・地勢から見る桑取谷・桑取谷の暮らしと水利用

※天候、農産物の発育状態、地域行事日程により、カリキュラムが変更になる場合があります。

■「まかない」を 機軸とした 新たな「クニ」づくり

「まかない」・・・

人、食、天然資源、文化、技術、
景観、地域内経済、地域内産業
等、生存に必要な資源の自給。

「クニ」・・・

自給の持続可能なシステムを
併せ持つ地域。また、その資
源の余剰分を使った、外部へ
の「産業のまかない」が興せる
地域。

まかないの種類	地域にある資源
① 水のまかない	雪・湧き水・川・用水路・縦井戸・横井戸など
② 米・野菜・家畜のまかない	稲作・畑作・棚田・鶏・豚・牛・ヤギ
③ 天然採取物のまかない	山菜・木の実・草の実・きのこ・獣・川魚・薬草
④ 塩・海産物のまかない	塩・海藻・魚・貝
⑤ 森林資源のまかない	里山林・スギ林・ブナ林
⑥ エネルギーのまかない	水力・風力・太陽光・雪・炭
⑦ 文化・技術・景観のまかない	人々・生活技術・知恵・コミュニティ
⑧ 民俗伝統のまかない	祭・里神楽・年中行事・冠婚葬祭・慣習・小正月行事
⑨ 教育のまかない	上越市環境教育施設・地元小学校放課後活動教室・研修生・インターンシップ受入れ・棚田学校/菜園学校/古民家改修学校/子どもの生活技術プログラム実施・総合生活技術学校プログラム実施
⑩ 福祉のまかない	相互扶助のシステム・高齢者の仕事の場
⑪ 地域循環産業・経済のまかない	温泉施設・炭・商店・米野菜・結

⑫ 高付加価値産業のまかない	①～⑪のまかない全てをもとに開発
----------------	------------------

3、都市のNPOとの協働による ワークキャンプでの地域おこし

事例紹介

①熊本県菊池市「NPOきらり水源村」

②福島県昭和村「NPO苧麻倶楽部」



事例① 福島県昭和村／

国際ワークキャンプセンター

からむし織の里

福島県昭和村

人口1700人

高齢化率50%超

私たちの団体寺子屋方丈舎は不登校の子どもを対象としたフリースクールです。福島県の会津地域で活動をしています。会津は雪深い、白虎隊というイメージが強いかもしれませんが、そこには時代の流れに逆らうように暮らす人の営みがあります。私たちはそのような「懐かしい未来」の地で若者ととも農業、お年寄りの支援を行います。若者とお年寄り、ひと世代を超えた交流が地域を豊かに活気づけます。この夏昭和村で会いましょう。
寺子屋方丈舎 理事長 江川和弥さん

都市と田舎のNPOが手を結ぶ

寺子屋方丈舎

◆不登校児童・生徒の居場所兼学びの場として1999年に設立。

フリースクールと環境教育を地域内で担う目的で活動。

著麻倶楽部

◆田舎への定住化・二地域居住を推進する目的での、「田舎暮らし体験住宅」の管理運営。またそれに付随するエコツアーの企画提案・実施を行う。

ホールアース自然学校・くりこま高原自然学校・グリーンウッドなどもワークキャンプ受け入れ団体

NICE (日本国際ワークキャンプセンター)

◆会員1371名 サポーター6880名
2007年は23県で143回、ボランティア1,590人＋住民数千人が参加。

日本／世界の人々や地域の住民が共に働き、暮らし、笑い、語り合いながら、自然に友情・理解・連帯を育てます。環境・農業・福祉・教育・文化・開発の各分野で、地域改善の意識・行動を高める活動を行っています。





交流地区 : 11地区
延世帯数 : 97世帯
延べ作業員数 : 334名
実稼動日数 : 54日間

